

平成 20 年度
自己点検・評価報告書

埼玉純真短期大学

「平成 20 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

平成 20 年度は、埼玉純真短期大学にとっては再起への第一歩の年となりました。昨年度の平成 19 年度は、英語コミュニケーション学科の廃科、乳幼児保育学科第二部の募集停止などに伴う諸般の出来事により、「埼玉純真短期大学はなくなる」などとさまざまな憶測が、在学生と保護者、さらに高校の教員や生徒の間にまでも飛び交い、これまで常に募集定員を上回る応募者があった「こども学科」も半数近くに激減するといった状況となりました。このような風評は、その努力にもかかわらず一朝一夕、即座に解消されるはずもなく、平成 20 年度の学生募集においても応募者数の回復はそれほど見られませんでした。

しかしながら、教職員は「卒業生や在学生のためにも埼玉純真短期大学を復活させる」と気持ちを一つにして、地味で即効性はないかもしれないが、教育機関としてのプライドを保ち、本来あるべき方法、教育と研究を着実に実行するという地道な方法で信頼回復への取り組みを始めました。それらは、学生教育の一層の充実はもちろん、文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」での『(軽度) 発達障害』の幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム』の公開講座であり、「教員免許状更新制における更新予備講習(選択科目)」であり、日頃から本学への理解と協力をくださる地域住民対象の「夏季公開講座」などです。

これらの事業実施に際しても、教職員ひとり一人が建学の精神を具現化するかのごとく、本学を愛する気持ちを前面に押し出して、全員が一致協力・協同の姿勢で取り組んだ結果、これらをすべて成功に導くことができたことは誇りに感じております。

このことは、「時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある女性を訓育する」ことを目的して設立した本学園の創設者福田昌子先生の建学の精神「気品・知性・奉仕」であり、「教育基本法に則り、学校教育法の定める短期大学として学術の理論及び応用を研究教授すると共に、学校法人純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする」として開学した本学本来の姿を教職員自らが具体化したものでした。

創立 25 年を超えた今、さまざまな試練に立たされていることは、これを機に「こども学科」単科にて、専門性を持った特色ある女子短期大学として、より一層飛躍するための力を蓄える機会を与えられたと考えています。これらの試練は、時代という豊饒の中で、平々凡々とした日々を漫然と送ってきたことへ戒めかもしれません。そして、新たな時代への旅立ちに際して、過去を振り返り、未来を展望する機会を与えられたものとも解釈しています。正に今がその時で、教職員一同は本学の復活という直近の目標、そして更なる目標に向けて積極的に取り組みを始めていることがこれを感じさせてくれます。

本報告書は、諸般の事情で作成までにかかなりの時間を要してしまいましたが、学園の建学の精神、本学の教育理念や教育目標に照らし合わせて、自らの立ち位置を確認し、将来の方向を再確認するため、全教職員がそれぞれに役割を担い作成しました。

本報告書作成に協力していただいた全教職員に心より感謝いたします。

平成 21 年 5 月

埼玉純真短期大学
学長 藤田 利久

平成 20 年度自己点検・評価報告書目次

「平成 20 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

I 本学の概要

- 1 沿革と建学の理念
 - (1) 沿革
 - ① 学園の設立と沿革 ② 本学の創立と沿革
 - (2) 建学の理念
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 教育方針と特色
 - (1) こども学科
 - (2) 乳幼児保育学科第二部
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 組織と構成
 - (1) 運営組織
 - ① 運営組織 ② 成果と課題（点検・評価）
 - (2) 校務分掌
 - ① 役職 ② 全学的な委員会の長 ③ 全学的な委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務室
 - ⑥ 付属図書館職員 ⑦ 技術職員 ⑧ 成果と課題（点検・評価）
 - (3) 入学定員及び学生数
- 4 学事日程
 - (1) 学事日程
 - (2) 成果と課題（点検・評価）

II 入試と広報

- 1 入試
 - (1) 組織と運営
 - ① 入試に関する組織 ② 入試業務
 - (2) 平成 21 年度入試の特徴
 - ① 入試の改善点 ② 入試の特徴
 - (3) 平成 21 年度入試結果
 - (4) 募集要項
 - ① 募集要項の形式 ② 選抜方法 ③ 入試日程
 - (5) 成果と課題（点検・評価）
- 2 広報
 - (1) 組織と運営

- (2) オープンキャンパス
 - ① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (3) その他の広報活動
 - ① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ Web-Site への掲載
 - ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカレッジ ⑦ 夏季公開講座
- (4) 成果と課題 (点検・評価)

Ⅲ 教育活動

1 教育課程

- (1) 教育課程の編成
- (2) 学科・専攻の教育課程
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
- (3) 成果と課題 (点検・評価)

2 時間割編成と履修指導

- (1) 時間割編成
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (2) 履修指導
 - ① 履修指導 ② 成果と課題 (点検・評価)

3 授業実施状況

- (1) 授業科目の履修者
 - ① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (2) 授業の開講・休講及び補講の状況
 - ① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題 (点検・評価)
- (3) 授業履修者の問題状況
 - ① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 追試験該当者数
 - ⑤ 成果と課題 (点検・評価)
- (4) 免許状・資格取得状況
 - ① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数
 - ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (5) 教育実習・保育実習・介護等体験
 - ① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (6) 授業内容と教育方法の工夫・研究
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果
 - ① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題 (点検・評価)

IV 学生生活

- 1 学生の動向
 - (1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況
 - ① 平成18年度入学生 ② 平成19年度入学生 ③ 平成20年度入学生
 - (2) 学生の動向
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 クラス担任制
 - (1) こども学科
 - (2) 乳幼児保育学科第二部
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 学外における研修
 - (1) こども学科学外研修
 - ① 実施概要 ② 成果と課題（点検・評価）
 - (2) 乳幼児保育学科第二部学外研修
- 4 課外活動
 - (1) 学生会
 - (2) 学生会主催行事
 - ① 学生会オリエンテーション ② スポーツ大会 ③ 純真祭
 - (3) クラブ活動・同好会活動
 - (4) 研修活動
 - ① リーダー研修
 - (5) 成果と課題（点検・評価）
- 5 学生生活への配慮・支援
 - (1) 奨学金
 - (2) 健康管理
 - (3) 保険制度
 - (4) 学生専用アパート
 - (5) 通学の状況
 - (6) 学生相談室
 - (7) 成果と課題（点検・評価）

V 就職と進学

- 1 就職
 - (1) 就職指導
 - ① 就職委員会の基本方針 ② 平成20年度年間就職指導計画 ③ 学科別の就職指導
 - ④ 就職関連諸会合への参加

- (2) 就職状況
 - ① 就職内定状況 ② 就職内定先等内訳及び内定先一覧
- (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 進学
 - (1) 編入学及びその他の進学
 - (2) 成果と課題（点検・報告）
- 3 卒業生への支援

VI 教員の研究活動及び社会的活動

- 1 研究活動
 - (1) 研究活動の概要
 - (2) 専任教員の研究業績
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
 - (3) 専任教員の所属学会
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
- 2 社会的活動
 - (1) 講師・助言者等の実施状況
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
 - (2) 専任教員の諸団体への所属状況
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
 - (3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況
 - ① こども学科 ② 乳幼児保育学科第二部
- 3 成果と課題（点検・評価）

VII 図書館

- 1 図書館の基本方針
- 2 組織と運営
- 3 施設・設備及び情報サービス
 - (1) 施設・設備
 - (2) 情報サービス
 - ① レファレンス・サービス ② 館外貸出及びコピーサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用
- 4 所蔵点数と年間受入状況
 - (1) 所蔵点数
 - ① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数
 - (2) 年間受入状況
- 5 利用状況
 - (1) 入館者数

- (2) 館外貸出
- (3) その他の業務
 - ① 参考業務 ② 現物貸借 ③ 文献複写

- 6 研究紀要
- 7 成果と課題（点検・評価）

VIII 校地・施設・設備

- 1 校地及び校舎面積
 - (1) 概要
 - (2) 成果と課題（点検・評価）
- 2 施設及び設備
 - (1) 概要
 - (2) 保守・管理体制
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 学内見取図

IX 教授会・委員会等

- 1 教授会
 - (1) 教授会
 - ① 開催日程及び主な審議事項等 ② 成果と課題（点検・評価）
 - (2) 人事
 - ① 採用 ② 退職 ③ 昇任・昇格 ④ 成果と課題（点検・評価）
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 委員会
 - (1) 教務委員会
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
 - (2) 学生委員会
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
 - (3) 図書委員会
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
 - (4) 就職委員会
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
 - (5) 入試委員会
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
 - (6) 実習委員会
 - ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）
 - (7) FD委員会（自己点検・評価委員会を含む）

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(8) 学び直し委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(9) 編集委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

X 事務組織

1 業務分掌

(1) 事務組織の業務分掌

(2) 事務分掌

2 成果と課題（点検・評価）

X I 財政

1 財政の状況

(1) 消費収支決算の状況

① 消費収入 ② 消費支出

(2) 貸借対照表の現状

(3) 財務比率

(4) 成果と課題（点検・評価）

X II 同窓会（秋桜会）

1 活動状況

(1) 役員組織

(2) 活動状況

2 成果と課題（点検・評価）

I 本学の概要

1 沿革と建学の理念

(1) 沿革

① 学園の設立と沿革

26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた福田昌子女史は、昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動した。

戦後の混乱の中、教育においても教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家のそれに対応した教育制度の改革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興の日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性和重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品』『知性』『奉仕』の精神が備わった女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年2月、学校法人純真女子学園を創立した。同年4月、「“純真な女性の姿”という意味の『純真』を校名に付し」純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のための教育に未来を託して、職業を持ち、経済的にも自立した教養のある女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子高等教育を開始した。

○ 純真学園の沿革

年月日	沿革
昭和31年2月1日	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を創立
昭和31年4月1日	純真女子高等学校開校
昭和32年3月15日	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月1日	純真女子短期大学(国文科)開学 福田昌子、初代学長に就任
昭和41年4月1日	純真女子高等学校を東和高等学校(男女共学)に改称 福田学園中学校開校 純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月1日	東和大学(工業化学科・電気工学科)開学 福田昌子、初代学長に就任
昭和51年1月28日	福田敏南、学校法人福田学園理事長に就任
昭和52年4月1日	国際教育研究所(東京)設立
昭和54年4月1日	東和大学附属昌平高等学校開校
昭和58年4月1日	埼玉純真女子短期大学(英語学科・児童教育学科・幼児教育学科)開学
昭和58年4月1日	福田敏南、初代学長に就任

平成 12 年 2 月 17 日	福田庸之助、学校法人福田学園理事長に就任
平成 18 年 4 月 1 日	東和大学附属昌平高等学校を本学園より分離
平成 19 年 4 月 1 日	学校法人名を純真学園と改称

② 本学の創立と沿革

本学は、昭和 58 年 4 月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の 3 学科をもって現在地に開学した。

福田昌子女史が昭和 31 年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の教育理念に基づく女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員 100 名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同 50 名・幼児教育学専攻：同 50 名）・幼児教育学科第二部（同 50 名）の 3 学科（うち 1 学科は第二部 3 年課程）2 専攻であった。第 1 期入学生は、英語学科 62 名・児童教育学科初等教育学専攻 45 名・同幼児教育学専攻 58 名・幼児教育学科第二部 42 名の計 207 名であった。

○ 埼玉純真短期大学の沿革

年月日	沿革
昭和 58 年 4 月 1 日	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 福田敏南、初代学長に就任
平成 16 年 4 月 1 日	学科及び専攻の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻、・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成 17 年 4 月 1 日	入学定員を変更し、こども学科の専攻（こども学専攻、乳幼児保育専攻）を廃止 ・英語コミュニケーション学科:100 人→50 人・こども学科:100 人→150 人
平成 18 年 4 月 1 日	英語コミュニケーション学科募集停止
平成 19 年 4 月 1 日	埼玉純真短期大学に校名変更し、乳幼児保育学科第二部募集停止
平成 19 年 8 月 1 日	文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択
平成 20 年 8 月・11 月	「教員免許状更新制における更新予備講習（選択科目）」開講

(2) 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

第1章 総則

(目的及び使命)

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として学術の理論、及び応用を研究教授すると共に純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」では、「学術の理論及び応用を研究教授する」として「学校教育法」第83条に、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」として、同法第108条「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」にそれぞれ対応させ、本学が職業型大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき・・・」として、本学が、学園訓（建学の精神）である「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある女子職業人の育成を目指していることを示している。

このように、本学の設立目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の養成でありその基礎となる「純真」なる心をもって人々に対応できる「良き人間」の育成である。同時にこのことを通して羽生市を中心として広く地域社会に女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

(3) 成果と課題（点検・評価）

本学において建学の精神である学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」は、教職員に対しては年度初めの会議等で、理事長や学長から解釈とともに共通認識としての確認を改めて行っている。また、学生に対しても入学式や卒業式はもとより、大学パンフレットや学生便覧などで各学期始めに再三知らせ、意識させるようにしている。入学希望者や保護者はじめ外部に対しては、大学パンフレットや本学の広報誌などを通じて理解を求めている。

このことの成果は、教員については授業はもとより、社会的活動への献身的で積極的な取り組みがこれを証明し、学生の勉学へ臨む態度やボランティアなどへの積極的取り組みからは、本学の建学の精神に基づく、教育は概ね浸透し、実践されていると考えても良いと思われる。

しかしながら、学科の閉鎖や募集停止など建学の精神を広める場を狭めていることは、本学の存続を占う今後の重要な課題として捉え、将来的には新学科設置などを含めて、地域社会と共に生きる本学の在り方を考え、真剣に取り組んでいかなければならないと考える。

2 教育方針と特色

(1) こども学科

「こども学科」には、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、それぞれが専門性を追求できるようにしている。両者に共通の教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者においては、小学校と幼稚園の連携、初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園における教育を総合的に理解し、教員として教育現場に立てるように教育理論と実践をバランス良く習得できるようにしている。

後者においては、保育所と幼稚園の相違を正確に理解しながら、子どもの発達理解と子どもの発達段階を踏まえた援助方法などの理論と実践を身につけた保育専門職の養成を目指した科目設置をしている。

これらの目的の実現のため教室内での授業はもとより、実習指導にも重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を行い、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるよう、きめ細かく丁寧に教育と指導が行われているところも本学科の特色のひとつである。

さらに、将来、専門職者となる学生が自らの課題を授業の中だけで明確にするだけでなく、ボランティア参加など自主的な活動を通して、新たな課題を発見・検証し、それらを発展させていけるような指導にも心がけている。

また、教育・保育に重要な絵本や幼児向け図書の積極的活用のための基礎知識と技術を学べるようにと司書資格・司書教諭資格の課程も設けている。

特に、即戦力となりうるように、「こども学コース」では少人数クラスでの模擬授業や、実践記録、授業研究など実践的な授業を多くとり入れているとともに、「乳幼児保育コース」でもできるかぎり多くの保育事例をもとに理解を深められるような授業を展開している。

これらの知識や技術をより深く学びたい、小学校や幼稚園教諭一種の免許状取得を目指したい、などと希望する学生には課外で4年制大学編入指導にも力を注いでいる。

(2) 乳幼児保育学科第二部

「乳幼児保育学科第二部」は、職業人や家庭の主婦など一般社会人のため開設された幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が3年間で取得できる夜間開講の学科である。この学科も社会の変化に伴い、入学希望者が減少したため、平成19年度入学生をもって募集停止することとした。

この学科では、「こども学科乳幼児保育コース」と同様に、教育・保育に関する理論的知

識と技能を習得できるように科目配置をしている。

現在の学生数も2・3学年合わせても25名に満たないため、必然的に少人数クラスの授業となり、学生への配慮も十分に行き届いた授業展開ができるところが大きな特徴である。また、授業においても、学生が社会人であることを前提に、教員が一方的に講義するだけでなく、学生が自らの育児や保育の経験の中から問題を提起し、質疑応答形式で行う機会も多くとり入れられることもこの学科の特徴のひとつである。夜間であるため1日2コマの授業という時間的な制約を受けながらも、学生は目的意識も高く、保育者としての資質を開花させ、専門職への道を歩んでいる。

第二部の学生は学習面や生活面においても、こども学科の学生とは違った様々な悩みや問題を抱えている場合が多く、これらに対する教職員の対応如何が学生の就学意欲に大きな影響を与えるため、学生に対しては慎重かつ丁寧に対応している。

(3) 成果と課題(点検・評価)

授業実施については、「こども学科」と「乳幼児教育学科第二部」という養成目的を同じくする2学科であるため、授業科目や担当教員もにおいてもほぼ同様な配置ができるため、授業においても質の均一性が保たれている。また、実習や就職指導においても両学科共通に担当し実施するため、実習でもあまり問題が発生しないこと、就職においてはほぼ学生の希望どおりとなったなど、全体的には順調に教育活動が行われている点は評価できる。

一方、今後、早急に対処と改善を必要とする問題もある。まずは学生数の減少である。学生数の大幅な減少に伴い「こども学科」のコース別授業が次第に成立しがたい状況になってきたことである。つぎに、近年どこの大学でも目立ち始めたことであるが、友人関係や集団になじめないことなどが原因で授業に積極的に臨めなくなる学生がいることである。

前者においては学生数を増やすための方策は本学の問題として解決していくが、後者においては、この問題が実習と資格取得、さらには就職活動や就職後の就業での問題として波及し、学生自身が所期の目的を十分に達成することが困難な状況が生まれ始めたことである。これは大学側だけの問題でなく、学生自身の将来の問題として重大に受け止めている。

この状況や対処については、学生指導の項目に詳しく述べるが、今後、より真剣に取り組んでいかなければならない問題である。

3 組織と編成

(1) 運営組織

① 運営組織

平成 20 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

○ 各学科の教員配置

こども学科	乳幼児保育学科第二部
藤田 利久・入江 良英・牛込 彰彦・木許 隆 井筒 紫乃・安部 孝・草信 和世・斐 珉卿 浦 由希子・高木 香織・本多 創史 中佐古 勇 (特任) 以上 12 名	小澤 和恵 以上 1 名

教授会は、学則第 8 条に基づき、上記の中の常勤専任教員をメンバーとして組織し、これにオブザーバーとして事務長・各課の責任者（事務職員）が参加した。

それぞれの案件を検討・処理する委員会として、つぎの表のとおり設けることとした。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とし、各委員会には、適宜、学長と事務長が出席することとした。

また、教授会へ提出する議題の整理・審議事項の事前調整・その他の諸問題の情報共有を図るために「部長会」を設け、学長・教務部長・学生部長・図書館長に各委員長と事務長で連絡調整会議を原則的に教授会前の水曜日に開催した。

○ 委員会一覧

教務委員会・学生委員会・図書委員会・就職委員会・入試委員会・実習委員会・FD委員会 学び直し委員会・編集委員会
--

② 成果と課題（点検・評価）

教員組織については、平成 19 年度報告書の「この件について、客観的根拠を明らかにしていかなければならないし、教員の職位と年齢のバランスも考えなければならぬ。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるように増員を考えていかなければならない。」とした改善案に基づき、准教授 1 名（30 代）、講師 2 名（30 代）、助教 2 名（30 代と 20 代）を新規採用した。このことにより、若返りが図られると共に職位と年齢のバランスも理想に近いものとなった。

教授会については、学長が議長となり原則的に毎月 1 回（夏季休暇中の 8 月開催しない）開催された。原則的に各委員会より教授会に提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほぼ異議なく了承されるという状況であつ

た。参加者から質問や意見を求められる場合もあったが、それらは確認するといった意味と内容が主であった。昨年度に比べれば、感情的な対立ではなく、良識ある大学人としての議論も出始め、教授会も活性化してきたと思われる。

委員会は、昨年度同様、学生対応などで日常的に繁忙を極める委員会とそうでない委員会とに分かれた。しかし、すべての教員が委員を兼務するため、個々の教員の業務は忙しいものとなったが、各委員会ではそれらの業務をそれぞれ分担し的確に対処していった。また、多くの委員会は、定例あるいは臨時会議などを開催し情報や意見交換を密に行った結果、円滑に運営され、充分機能したと言える。ただ、あまりに業務が集中し、個別化したために業務遂行が予定どおりに進まない委員会もあったことは、次年度への反省事項である。

(2) 校務分掌

① 役職

子ども学科	乳幼児保育学科第二部
学 長：藤田 利久 教 授：入江 良英・牛込 彰彦 特任教授：中佐古 勇 准 教 授：木許 隆・井筒 紫乃 専任講師：安部 孝・草信 和世・斐 珉卿 助 教：浦 由希子・高木 香織・本多 創史	准 教 授：小澤 和恵

② 全学的な委員会の長

委員会名	委員長名	入試委員会	小澤 和恵
教務委員会	小澤 和恵	実習委員会	牛込 彰彦
学生委員会	井筒 紫乃	FD委員会	草信 和世
図書委員会	牛込 彰彦	学び直し委員会	入江 良英
就職委員会	安部 孝	編集委員会	木許 隆

③ 全学的な委員会の委員

委員会名	教員名
教務委員会	小澤 和恵・藤田 利久(学長)・入江 良英・牛込 彰彦・井筒 紫乃・安部 孝 草信 和世
学生委員会	井筒 紫乃・木許 隆・草信 和世・青木 万里・斐 珉卿・本多 創史
図書委員会	牛込 彰彦・高木 香織・青木 万里・斐 珉卿・本多 創史・浦 由希子
就職委員会	安部 孝・入江 良英・木許 隆・青木 万里・草信 和世・浦 由希子・高木 香織

入試委員会	小澤 和恵・藤田 利久(学長)・入江 良英・牛込 彰彦・井筒 紫乃・安部 孝 草信 和世
実習委員会	牛込 彰彦・高木 香織・入江 良英・木許 隆・安部 孝・褒 珉卿・本多 創史 浦 由希子・井筒 紫乃
FD委員会	草信 和世・全専任教員
学び直し委員会	入江 良英・全専任教員
編集委員会	木許 隆・浦 由希子・本多 創史

④ クラス担任

○ こども学科

クラス	1年	2年
A組	木許 隆	井筒 紫乃
B組	本多 創史	牛込 彰彦
C組	浦 由希子	草信 和世
D組	—	小澤 和恵
E組	—	褒 珉卿

○ 乳幼児保育学科第二部

クラス	2年	3年
乳幼児保育学科第二部	高木 香織	安部 孝

⑤ 事務室

本学の事務職員は、事務長以下、専任職員 14 名、非常勤職員 2 名で構成され、総務・庶務・経理教務・学生・入試広報・実習をそれぞれに担当している。

⑥ 付属図書館職員

本学の図書館職員は、専任司書 1 名、非常勤職員 2 名で構成されている。

⑦ 技術職員

本学の技術職員は、専任職員 2 名で構成されている。

⑧ 成果と課題(点検・評価)

平成 20 年度は人員の入れ替えと縮小が行われた本学の組織ではあったが、少ない教職員でも学生の教育や活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと思われる。

委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・就職委員会・実習委員会・入試委員会・図

書委員会・学び直し委員会に新たにFD委員会（自己点検・評価を含む）と編集委員会の2委員会を設置した。事務においても各セクションに最小人数と思われる程の配置となったが、十二分とは言えないまでも、特別な支障をきたすことにはならなかった。

教員は平成20年度の教員の出勤日が週4日（研究日1日）となり、委員会活動や学生指導に十分な時間をかけられる状態となった。各組織の担当教職員は責任感を持って自己の職務を遂行する雰囲気があり、さらに、公開講座や教員免許更新予備講習など新規事業への取り組みがあったことは評価できる。

しかし、教員においても職員においても、これまでの業務における慣例的環境の影響も依然として色濃く残っていたことは改善の必要があると思われる。例えば、個々の経験を集約し、広い視野に立って考え、本学の組織運営や各種活動に活かしていくスタイルの確立が求められるところである。

平成21年度は短大基準協会による「第三者評価」を受ける年でもあり、今一度、本学の「建学の精神」と「教育方針」を教職員が再確認をし、個人としてはもちろん組織として、これに則った大学運営、委員会活動等をしていかなければならないと考える。

（3） 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数一覧

（平成20年5月1日現在・単位：人）

学科・専攻		定員	1年	2年	3年	計
こども学科	乳幼児保育コース	150	84	142	-	226
	こども学コース		7	11	-	18
乳幼児保育学科第二部		50	-	7	15	22
計		200	91	160	15	266

4 平成 20 年度学事日程

(1) 学事日程

○ 学事日程一覧

前 期		後 期	
日 付	行 事	日 付	行 事
平成 20 年		9 月 29 日	後期授業開始
4 月 2 日	健康診断	10 月 4 日	AO 入試予備面談
4 月 3・4 日	こども学科学外研修	10 月 6 日	小学校教育実習（こども学科 2 年）
4 月 5 日	平成 20 年度入学式	～31 日	
4 月 7・8 日	オリエンテーション	10 月 11 日	AO 入試
4 月 9 日	前期授業開始	10 月 14 日	幼稚園教育実習（こども学科乳幼児保
4 月 10 日	補講日	～27 日	育コース 2 年・乳幼児保育学科第二部
5 月 2 日	創立記念日	11 月 1 日	3 年)
5 月 10 日	こども学科スポーツ大会	11 月 8 日	指定校推薦入試・第 1 期一般推薦入試
5 月 20 日	自宅外通学生懇親会	11 月 15 日	補講日
5 月 10 日	補講日	11 月 21・22 日	補講日
5 月 17 日	補講日	11 月 23 日	純真祭準備
5 月 23 日	乳幼児保育学科第二部スポーツ大会	11 月 24 日	純真祭
5 月 24 日	補講日	11 月 25・26 日	片付け
5 月 26 日	幼稚園教育実習（こども学科 2 年・	11 月 29 日	振替休日
～6 月 7 日	乳幼児保育学科第二部 3 年)	12 月 16 日	補講日
6 月 14 日	補講日	12 月 6 日	自宅外通学生懇親会
6 月 21・22 日	第 1 回オープンキャンパス	12 月 13 日	第 2 期一般推薦入試・第 1 期社会人入
6 月 28 日	補講日	12 月 20 日	試
6 月 30 日	保育所実習（こども学科 2 年・乳幼	12 月 24 日	補講日
～7 月 30 日	児保育学科第二部 3 年)	～1 月 4 日	補講日
7 月 26・27 日	第 2 回オープンキャンパス	平成 21 年	
7 月 16 日	夏季休業	1 月 5 日	冬季休業
～8 月 29 日		1 月 10 日	後期授業再開
9 月 1 日	前期授業再開	1 月 17 日	補講日
8 月 23・24 日	第 3 回オープンキャンパス	1 月 24 日	補講日
9 月 3・4 日	補講日	1 月 27 日～30 日	補講日
9 月 8・10・11 日	補講日	1 月 31 日	補講日
9 月 12 日	前期試験	2 月 2 日～6 日	第 1 期一般入試

～19日		2月9日	後期試験
9月20日	AO入試予備面談	2月13日	補講日・追再試験発表
9月22日	補講日	2月14日	表現発表会リハーサル
8月25日	補講日	2月10日～18日	表現発表会
～29日		2月19日～28日	後期試験追再試
9月24日	前期試験追再試	2月16日～28日	施設実習（こども学科1年）
～26日		2月28日	幼稚園教育実習（こども学科1年）
		3月13日	第2期一般入試・第2期社会人入試
		3月14日	卒業証書授与式予行
		3月16日	第25回卒業証書授与式
		3月23日	AO予備面談・AO入試

（2） 成果と課題（点検・評価）

免許状と資格の取得を目指す短期大学の宿命とも言えるが、授業コマ数15コマ以上を確保した上で、保育所・幼稚園・小学校での実習を組み込んでいくため、補講日の設定などで学事日程は全体的にかなり窮屈なものとなった。

配慮した点では、近年、学生に対する親の思いや大学と保護者の関係を密接にし、学生生活を意義あるものしたいという考えから、入学式と卒業式を保護者が列席しやすいよう、平成19年度に続いて平成20年度においても土曜日に設定した。

新入生学外（合宿）研修を入学式後のオリエンテーションの時期に行いたいと準備を進めたが、施設の状況や授業時数確保の関係から入学式前に行うこととなった。入学式前実施ということで、新入生に対する諸連絡などに配慮の必要があったが、プレカレッジ（入学前教育）などで、すでに連絡方法も確立していたため問題もなく、入学式当日から学生同士の交流が見られ、大学生活にスムーズに入れる研修となった。

補講実施については、補講期間以外に土曜日に補講日を設定していたが、幼稚園実習や保育所実習の始まる直前の土曜日の補講日については、学生に負担がかかるのではという意見もあり、次年度は補講日、定期試験期間、実習期間などすべてにおいて見直しをする必要があると考える。

Ⅱ 学生の受け入れ（入試と広報）

1 入試

（1） 組織と運営

① 入試に関する組織

（a） 入試委員会

入試に関する事項は、各委員長を中心とした入試委員会によって審議した。

○ 入試委員会構成員

入試委員長・学長・図書館長・教務部長・学生部長・就職委員長・FD委員長 委員（教員）・事務長代理・入試広報事務担当者（書記を兼務）
--

（b） 入試問題作成委員会

本学では、一般入試において学力検査（国語）を実施している。また、社会人入試において作文を課している。一般入試の問題作成については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当し、社会人入試の出題については、国語科を担当する教員を中心として2名の専任教員が担当した。

（c） 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ入試要項・学校案内パンフレット等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と接見した。この活動には、入試広報事務担当者だけではなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

② 入試業務

入試委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

○ 入試業務一覧

・ 入試の企画・運営

入試の種類の策定・入試日程（案）作成・指定推薦校（案）作成・入試選考基準（案）作成・学生募集要項作成
大学案内パンフレット作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成
合格通知発送

・ 広報活動

（２） 平成 21 年度入試の特徴

① 入試の改善点

推薦入試区分を指定校推薦入試、一般推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試の 3 区分に分けた。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。そして、推薦条件を「平成 20 年 3 月卒業見込み、及び平成 19 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者」とした。

また、AO入試のエントリー期間を 3 期に分け、従来 2 回行っていた予備面談を 1 回とし、保護者や高等学校の教員等の同伴も認めた。

② 入試の特徴

（a）入試の動向

指定校推薦入試、一般推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試と多様化する進学者のニーズを捉えて推薦入試の区分を 3 区分に分けた。

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成 21 年 3 月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

一般推薦入試は、2 回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成 21 年 3 月卒業見込み、及び平成 20 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

専門高校・総合学科等推薦入試は、2 回実施している。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。推薦基準となる卒業年度等は、一般推薦入試に準じている

一般入試は、2 回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、2 回実施している。社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文（800 字以上）と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

AO入試は、2 回実施している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約 1 時間程度の予備面談を行う。予備面談は、3 回のエントリー期間を設け、面談時には、保護者、高等学校教員等が同伴することを認めている。そして、面談内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質問を受

け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路・その他、優れた能力・活動への質問を行う。本試験を行う前に予備面談を行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX等による問い合わせには応じていない。

(b) 志願者の動向

○ 本学志願者の推移

(単位：人)

年 度	志願者数		
	英語コミュニケーション学科	こども学科	乳幼児保育学科第二部
平成 16 年度	15	202	28
平成 17 年度	12	183	20
平成 18 年度	8	192	20
平成 19 年度	—	173	6
平成 20 年度	—	97	—

(3) 平成 21 年度入試結果

○ 入試結果一覧

(平成 21 年 3 月 31 日現在・単位：人)

学 科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
こども学科	86	85	84	81

(4) 募集要項

① 募集要項の形式

平成 18 年度に引き続き、A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。また、今回より、アドミッションポリシーについて表記した。

② 選考方法

○ 選考方法一覧

入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	予備面談	定員 (人)
推薦入試	指定校	○	○	○	—	—	40
	一般	○	○	○	—	—	35
	専門高校・総合学科等	○	○	○	—	—	15
入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	予備面談	定員 (人)
一般入試		—	○	○	「国語」 (古文・漢文 を除く)	—	30
社会人入試		—	○	○	作文 (800 字)	—	若干
A0 入試		—	○	○	—	○	25

③ 入試日程

○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		2008 年 10 月 8 日 (水) ～10 月 27 日 (月)	11 月 1 日 (土)	11 月 5 日 (水)	11 月 17 日 (月)
一般推薦入試	I 期	2008 年 10 月 8 日 (水) ～10 月 27 日 (月)	11 月 1 日 (土)	11 月 5 日 (水)	11 月 17 日 (月)
	II 期	2008 年 11 月 19 日 (水) ～12 月 2 日 (火)	12 月 6 日 (土)	12 月 8 日 (月)	12 月 19 日 (金)
専門高校・総合学科等 推薦入試	I 期	2008 年 10 月 8 日 (水) ～10 月 27 日 (月)	11 月 1 日 (土)	11 月 5 日 (水)	11 月 17 日 (月)
	II 期	2008 年 11 月 19 日 (水) ～12 月 2 日 (火)	12 月 6 日 (土)	12 月 8 日 (月)	12 月 19 日 (金)

一般入試	I期	2009年1月13日(火) ～1月26日(月)	1月31日(土)	2月2日(月)	2月19日(木)
	II期	2009年2月9日(月) ～2月25日(水)	2月28日(土)	3月2日(月)	3月19日(木)
社会人入試	I期	2008年11月19日(水) ～12月2日(火)	12月6日(土)	12月8日(月)	12月19日(金)
	II期	2009年2月9日(月) ～2月25日(水)	2月28日(土)	3月2日(月)	3月19日(木)

○ AO入試日程一覧

入試区分		エントリー期間	予備面談	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続き締切日
AO入試	I期	2008年6月28日(土) ～7月26日(土)	7月26日(土) 8月2日(土) 8月23日(土)	10月1日 (月) ～ 10月8日 (水)	10月11日 (土)	10月17日 (金)	10月27日 (月)
	II期	2007年9月1日(月) ～9月29日(月)	9月20日(土) 10月4日(土)	10月8日 (水)			
	III期	2009年2月23日(月) ～3月13日(金)	3月16日(月)	3月17日 (火) ～ 3月19日 (木)	3月23日 (月)	3月24日 (火)	3月30日 (月)

(5) 成果と課題(点検・報告)

大学入試の基本方針は文部科学省より示されている。その中で、各大学独自の特徴をもった入試が多く展開されている。入試形態が複雑化し、受験生に理解されにくい点が見受けられるため、本学の入試形態に関しては極力わかりやすいものをと考えている。

今後、入試の時期や受験方法、手続き時期、奨学金制度等、他学と比較し対応していくこと必要があると思われる。

2 広報

(1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報課を中心に全教職員で行った。

○ 広報活動一覧

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・学校案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・電飾看板の作成・受験生や高等学校への窓口業務（学校案内・募集要項・入試問題集などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）と学校見学の案内など・受験雑誌への広告掲載・進学相談会・模擬授業への教職員派遣 |
|--|

(2) オープンキャンパス

①□ 日程と内容

平成20年度は、以下の日程で計4回のオープンキャンパスを実施した。

○ オープンキャンパス実施日程一覧

1回目：6月21・22日、2回目：7月26・27日、3回目：8月23・24日、4回目：9月28日
--

内容は、本学・学科の説明・ワークショップ（模擬授業）・個別入試相談・キャンパス見学などである。

○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第1回	6月21日(土) 6月22日(日) 9:30～受付開始 10:00～14:00	ウエルカムコンサート 開会—学科の内容説明等 ワークショップ・模擬授業 *A～Dの中から2つ体験 A：読み聞かせを体験しよう B：音楽は爆発だ！～歌って踊って表現しよう～・C：沐浴実習 D：おもちゃで遊んでみよう！ 個別入試相談 キャンパス見学
第2回	7月26日(土) 7月27日(日) 9:30～受付開始 10:00～14:00	ウエルカムコンサート 開会—学科の内容説明等 ワークショップ・模擬授業 保護者会（同時進行） *A～Eの中から2つ体験 A：小さい子どもと過ごすことⅠ・Ⅱ B：教育・保育のホットトピックス“発達障害とは？”・C：多様な知能 D：共につくる音楽（音楽づくり）*26日(土)のみ開講 E：ドキドキ・ワクワクピアノ講座*27日(日)のみ開講 個別入試相談 キャンパス見学

第3回	8月23日(土) 8月24日(日) 9:30～受付開始 10:00～14:00	ウエルカムコンサート 開会—学科の内容説明等 ワークショップ・模擬授業 保護者会(同時進行) *A～Eの中から2つ体験 A:乳幼児の運動発達・B:心の声に耳を傾けて!・C:沐浴実習 D:音楽は爆発だ!～歌って踊って表現しよう～ E:影をとらえる *24日(日)のみ開講 個別入試相談 キャンパス見学
第4回	9月28日(日) 9:30～受付開始 10:00～14:00	ウエルカムコンサート 開会—学科の内容説明等 ワークショップ・模擬授業 *A～Eの中から2つ体験 A:本のもたらす豊かな世界・B:潜在能力について C:面接の受け方《模擬面接→個人指導》 D:ブラインドワークにチャレンジ! E:ドキドキ・ワクワクピアノ講座(スペシャル個別指導Ver) 個別入試相談 キャンパス見学

② 参加状況

○ オープンキャンパス参加状況一覧

(単位:人)

回	日時	高校3年生				個別面 談者数	1・2年生	付添者数	累計
		初回	2回目	3回目	4回目				
1	6月21日(土)	33	—	—	—	17	0	17	33
	6月22日(日)	20	—	—	—	6	0	9	53
2	7月26日(土)	43	3	—	—	11	5	22	96
	7月27日(日)	35	7	—	—	15	11	15	131
3	8月23日(土)	41	7	1	—	23	12	26	172
	8月24日(日)	35	2	4	—	9	13	20	207
4	9月28日(日)	36	20	3	1	20	21	18	243
合計		243	39	17	2	101	62	127	

③ 成果と課題(点検・評価)

オープンキャンパスは、高校生が本学の雰囲気を知る絶好の機会である。毎年志望校、および受験校の決定時期が早まる中、平成20年度のオープンキャンパスのスタートは、遅れてしまったのが残念である。ただ、本学では今年より、土曜日、日曜日と2日間連日開催することを試みてみた。最近は、土曜日に授業を行っている高校が増えつつある現状を踏まえてのことである。結果的には、土曜日の方が人数的には集客していることが見受けられた。

また、学生会スタッフとして学生会に所属する学生に、誘導やキャンパス見学会等を担当してもらった。学生へは事前指導を行い、当日は、本学の学生の手本として、しっかりとした対応ができていた。

個別相談会においては、受験生一人ひとりに合った本学の情報を提供することによって、疑問や入試・学生生活への不安を取り除くことができたようである。保護者同伴での参加が多くなる中で、保護者への理解も促すことができた。また、毎年の傾向だが、夏季休業に入ると、参加人数の伸びも感じられている。

今後は、遠方でオープンキャンパスへ参加できない人々のために、ホームページ上でリアルタイムに実施報告を掲載していくようにしたら、より多くの人々へ本学の取り組みを知らせることができると思われる。

(3) その他の広報活動

① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて、高等学校に理解していただくことである。平成 20 年度は、全教職員を各地区に分担し、春期と秋期に 2 回高校訪問を行った。春期は、指定推薦校を中心に、また、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前の期間に指定推薦校へ訪問した。また、オープンキャンパスやガイダンスなどに参加した生徒の高校へ訪問した。

② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特に、ホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。ホームページの内容としては、各学科の教育内容・取得資格・取得免許状を掲載している。また、受験生に対して、資料請求や質問等に回答できるページを設けており、在学生へは休講、緊急連絡などの情報を提供できるようにしている。

③ Web-Site への掲載

本学のホームページ以外に、教育関係業者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 20 年度は、2 社との契約をしているが、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。ここでの効果は、他大学を検索中に本学の取り組みや取得可能な資格・免許状を広く知らせることができる。この取組により、資料請求者の居住地域が広範囲になった。

④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年、埼玉県を中心に茨城県・群馬県・栃木県等のホテルや高等学校を会場とした進学相談会や模擬授業に参加している。そして、本学へ直接来校する受験生や保護者に対しても同様の試みを行っている。ガイダンスに参加することで、高校生のニーズや様子を感じ、本学を志望する生徒に対しての説明ができる。また、模擬授業は、本学教員の教育への取組や姿勢を高校生に理解してもらえるよい機会となっている。

⑤ 広報誌作成

平成 20 年 9 月 1 日に「News Letter」第 2 号を発行した。掲載内容は、新入生の声、学生会長からの挨拶、行事紹介、就職支援室から就職情報報告、公開講座・教員免許更新に関わる予備講習・社会人のための学び直しプログラムなどの実施報告、など。

資料請求者・オープンキャンパス参加者・指定推薦高等学校進路指導部・近隣の高等学校進路指導部・在学生の保護者等へ送付した。

⑥ プレカレッジ

年々、入学試験の実施期間が早まり、大学入学までの時間が長いため、新入生の意識や意欲などのモチベーションが下がらないように工夫する必要が出てきた。学力低下を防ぐというものだけではなく、合格者に対して入学前の事前教育を行うことによって、新年度からの意識付けになればと考えている。平成 20 年度も、推薦入試・AO 入試の合格者に対して入学前教育（プレカレッジ）の実施を試みた。

○ プレカレッジ概要

・日程
必修科目 2009年1月24日(土)・2月7日(土)
選択科目 2008年12月13日(土)・12月20日(土)・2009年1月17日(土)・2月26日(木)
特別講演 2009年2月14日(土) 表現発表会開催(羽生市産業文化ホールにて)
・履修方法：必修科目実施日のどちらかに出席する。選択科目実施日から選択し1日以上出席する。

○ プレカレッジ日程及び内容一覧

区 別	日 時	内 容
選択科目	12月13日(土) 10:00~11:50	1時限目：発達心理学 2時限目：障がいのあるこどもたちについて
選択科目	12月20日(土) 10:00~11:50	1時限目：こんな時どうする？～子どもへの対処方法を学ぼう～ 2時限目：クリスマスソングを楽しもう！！
選択科目	1月17日(土) 10:00~11:50	1時限目：「小1プロブレム」って知っていますか？－家庭教育・保育の重要性 2時限目：こども文化
必修科目	1月24日(土) 10:00~11:50	1時限目：漢字・文章の書き方 2時限目：ドキドキ！！ワクワク！！ピアノ講座

必修科目	2月7日(土) 10:00~11:50	1時限目:漢字・文章の書き方 2時限目:ドキドキ!!ワクワク!!ピアノ講座
特別講演	2月14日(土) 13:00~16:00	表現発表会 羽生市産業文化ホール・大ホール
選択科目	2月26日(土) 10:00~11:50	1時限目:子どもの世界を見てみよう! 2時限目:幼児体育

⑦ 夏季公開講座

夏期休業中(平成20年7月28日~8月1日)の5日間、下記のプログラムで公開講座を実施した。一般・高校生と誰でも参加できるプログラムを組んだが、外部への広報活動が遅かったため、参加者は少なかった。しかし、暑い中、毎日のようにピアノ個人レッスンに通ってきた高校生や、むじなもん体操へは近隣の小学生の親子参加も見られた。

最終日の講演会には、マラソン愛好家も多く参加され、講演終了後のランニングクリニックも受講されていた。また、閉講式には、羽生市長の参加もあり和やかに終了した。

次回、開催する際には、開催日時や内容を検討し、より多くの参加者を募ることができるよう考える必要がある。

○ 夏季公開講座プログラム

	7月28日		7月29日		7月30日		7月31日		8月1日
I 9:30-10:20	インテリジェ ンス入門 (入江)	ピアノ個人 レッスン (小澤・木許)	インテリジェ ンス入門 (入江)	ピアノ個人 レッスン (小澤・木許)	むじなもん体 操教室 (井筒)	ピアノ個人 レッスン (小澤・木許)	発達障害 (浦)	ピアノ個人 レッスン (小澤・木許)	講演会 ランニン グクリニ ック (浅井)
II 10:30-11:20	ドイツ語基礎 I (入江)		ドイツ語基礎 III (入江)		やさしいパン コン (藤田)		幼いこどもの ためのおもち ゃ作り (草信)		
	韓国語 I (裊)		韓国語 II (裊)		心との対話 (青木)		韓国語 III (裊)		
III 11:30-12:20	ドイツ語基礎 II (入江)		ドイツ語基礎 IV (入江)		やさしいパン コン (藤田)		本のもたらす 豊かな世界 (高木)		
	脳科学と教育 (牛込)		韓国料理 (裊)		教師たちが思 い描いたもの (安部)		韓国料理 (裊)		

(4) 成果と課題 (点検・評価)

18歳人口の減少に伴い大学全入時代になりつつある今日、全国的にみて短期大学への進学希望者が昨年よりさらに激減している。高等学校での進路指導は、まず大学進学を勧めるようである。ますます、短期大学の位置付けは大変低いものとなっている。このような状況下で、専門学校でも取得可能な保育士資格や幼稚園教諭2種免許状を、どのような授業カリキュラムとプログラムで取得させていくのかを全教職員で考え、入試広報に反映させていかなければならないと思う。

Ⅲ 教育活動

1 教育課程の編成

(1) 教育課程の構成

教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

また、本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程	小学校教諭二種免許状
	教員養成課程	幼稚園教諭二種免許状
	保育士養成課程	指定保育士養成施設卒業証明書
	司書課程	図書館司書資格証明書
	司書教諭課程	司書教諭課程修了証書
乳幼児保育学科第二部	卒業課程	短期大学士（保育学）
	教員養成課程	幼稚園教諭二種免許状
	保育士養成課程	指定保育士養成施設卒業証明書

(2) 学科・専攻の教育課程

① こども学科

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養課程（科目）及び専門課程（科目）をもって編成する。

本学科で取得できる免許状及び資格は、以下の通りである。

○ 取得可能免許状及び資格一覧（こども学科）

小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・司書資格・司書教諭資格

② 乳幼児保育学科第二部

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心にあふれ、優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養課程（科目）及び専門課程（科目）をもって編成する。

本学科で取得できる免許状及び資格は、以下の通りである。

- 取得可能免許状及び資格一覧（乳幼児保育学科第二部）

幼稚園教諭二種免許状・保育士資格

（3）成果と課題（点検・評価）

平成 20 年度においては、カリキュラムの見直しは行わなかった。しかしながら、変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成と、より「専門性」の伸長を図るために、次年度においてはカリキュラムの見直しを考えていきたい。

2 時間割編成と履修指導

（1）時間割編成

① こども学科

学生にとって効果的な授業となるように、授業における学生数を講義科目では 50 名以下、演習・実習科目では 40 名以下となるように配慮した時間割編成を行った。

また、こども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように、乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格及び司書資格の取得が可能になるように配慮して時間割編成を行った。

しかし、司書資格や司書教諭資格取得のための科目をすべて時間割へ組み込むことは難しく、組み込めない科目は集中講義として設定した。

② 乳幼児保育学科第二部

平成 19 年度の乳幼児保育学科第二部募集停止により、在學生は 2 年生（7 名）と 3 年生（14 名）となった。このため授業科目の配置も大幅な変更は行わなかったが、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格が、在学期間で確実に同時取得できるよう十分配慮して時間割編成を行った。

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 20 年に入り、教員の新旧入替えが発生したことによって、専任教員の担当科目の見直しが非常勤教員の担当科目までに影響を及ぼした結果、平成 20 年度前期の時間割編成は

新年度によりやく間に合うという状況であった。このような異常ともいえる状況は教育機関としてはあるべきことではないと考える。平成 21 年度は本学も落ち着きを見せてくると思われるので、専任・非常勤を含めた教員配置と担当科目の決定から時間割編成までを年内に行えるようにしたいと考えている。

(2) 履修指導

① 履修指導

オリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者が学年別履修指導を行った。さらに新入生に対しては授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについて詳しく説明をして、クラス担任からも指導を行った。

履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出させ、クラス担任・教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を把握し、指導と対応を行った。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導も行った。

② 成果と課題（点検・評価）

履修指導は問題なく行われていると考えるが、退職した教員からの引き継ぎが完全に行われなかったことによる問題がいくつか挙がった。これについては教員が個人として学生に対応した結果によるものとして考えられるため、さっそく学生の履修対応については教務委員と教務事務担当者が同席して行うこととした。これらの問題はコミュニケーションが円滑に行われていたならば未然に防げたものであるので、クラス担任・教務委員・教務事務担当者との連絡体制はもちろん、年度を超える時点での申し送りの徹底が必要であると考えられる。

一方、履修登録票提出期限を守れない学生が多く見受けられ、クラス担任や教務事務担当者をとおして何度も勧告する状況があった。今後、未登録者は授業への出席は認められないなど、将来の保育者・教育者への道を歩もうとする学生の自覚を促す意味からも、履修登録期間をはじめとする約束事を徹底させる方法を考えていきたい。

3 授業実施状況

(1) 授業科目の履修者

① 前期

(単位:人)

授業科目の履修人数 (名)	教養科目	専門教育科目		司書に関する専門科目	司書教諭に関する専門科目	その他の科目	計
		こども学科	乳幼児保育学科第二部				
0	0	0	0	0	0	0	0
1-9	0	13	10	4	2	0	29
10-19	0	7	9	1	0	0	17
20-29	10	8	0	0	0	0	18
30-39	3	28	0	0	0	0	31
40-49	2	16	0	0	0	0	18
50-59	1	6	0	0	0	0	7
60-69	1	0	0	0	0	0	1
70-79	0	4	0	0	0	0	4
80-89	0	2	0	0	0	0	2
90-99	0	1	0	0	0	0	1
100-09	0	0	0	0	0	0	0
110-19	0	0	0	0	0	0	0
120-29	0	0	0	0	0	0	0
130以上	0	2	0	0	0	0	2
計	17	87	19	5	2	0	130

② 後期

(単位：人)

授業科目の履修人数(名)	一般教育科目	専門教育科目		司書に関する専門科目	司書教諭に関する専門科目	その他の科目	計
		こども学科	乳幼児保育学科第一部				
0	0	0	0	0	0	0	0
1-9	0	17	8	7	2	0	34
10-19	3	6	9	2	0	0	20
20-29	3	10	0	0	0	0	13
30-39	1	15	0	0	0	0	16
40-49	2	17	0	0	0	0	19
50-59	0	7	0	0	0	0	7
60-69	0	0	0	0	0	0	0
70-79	0	5	0	0	0	0	5
80-89	0	4	0	0	0	0	4
90-99	0	1	0	0	0	0	1
100-109	0	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0	0	0
130以上	0	1	0	0	0	0	1
計	9	83	17	9	2	0	120

③ 成果と課題(点検・評価)

少人数クラスによる授業の実施がより徹底され、学生数50名以内の適切な人数での授業がなされた。中には履修者50名以上という授業もあるが、これらの科目もその授業内容から学生への効果を考慮してのことである。しかし、これも複数教員で担当し、1教員に対する学生数は50名以内となるようにした。

平成19年度にはせっかく開講していても履修希望者がいないに等しい科目があった。しかし、これらの科目については隔年開講という形で対応をした結果、今年度は履修希望者が極端に少ない科目はなくなった。

今後、履修希望者の動向を把握しながら、科目設置や科目内容の見直しを検討していきたい。

(2) 授業の開講・休講及び補講の状況

① 授業時数

平成20年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに15回開講された。

② 休講の状況

(a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分		休講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
専門科目	こども学科	0	0	0	0	0	0	4	3	6	7	20
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	1	0	0	0	5	4	6	15	31

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分		休講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	4
専門科目	こども学科	0	0	0	0	1	1	3	0	4	11	20
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	1	1	5	3	7	15	32

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校・中学校教育実習のために休講となった授業は、この表には含まない。

③ 補講の状況

(a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分		補講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
専門科目	こども学科	3	2	1	1	2	3	9	4	4	7	36
	乳幼児保育学科第二部	0	0	1	0	0	2	4	1	5	2	15
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		3	2	2	1	2	5	15	7	9	9	55

前期の補講に水泳実習は含まない。

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分		補講回数別授業科目数										
		10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目		0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	4
専門科目	こども学科	1	0	1	2	1	2	10	5	17	7	46
	乳幼児保育学科第二部	0	0	0	0	1	0	1	3	5	1	11
司書に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
司書教諭に関する専門科目		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の科目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1	0	2	2	2	2	12	9	24	11	65

④ 成果と課題（点検・評価）

厚生労働省の通達により保育士課程の科目については、各教科 15 回以上の授業実施が義務づけられていることもあり、前期・後期ともに全教科 15 回以上の授業（試験を含む）を実施した。この回数実施にあたり、実習などでやむを得ず休講になった科目は、補講の実施を行った。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	6
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	1	0	1	1	1	0	0	6	10

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	1	0	5	10	16
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	1	0	0	1	0	2	1	0	6	8	19
		こども学コース	1年	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
計				1	0	0	1	1	2	4	1	11	19	40

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数										
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児教育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども学科	乳幼児教育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2

(b) 後期

(単位:人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数											
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計				0	0	0	0	1	0	0	0	1	5	7	

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位:人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数											
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	18
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	4	3	10	34	51	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
計				0	0	0	0	0	0	4	3	10	55	72	

(b) 後期

(単位:人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数											
				10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	

④ 追試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計				1	0	0	0	0	0	0	0	0	11	12	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	乳幼児保育学科第二部		3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	3	6	1	0	0	2	0	1	13	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
計				0	0	3	6	2	0	0	3	1	5	20	

⑤ 成果と課題（点検・評価）

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、前期・後期ともに中間の7～8週目にかけて欠席状況調査を行い、出席状況が不十分な学生に対しは個別に、授業担当者及びクラス担任から指導を行っている。その結果、出席回数不足による受験無資格者はごくわずかとなった。

しかし、夏季休暇後の後期になると授業を欠席する学生が増え始め、後期定期試験における受験無資格者数が、前期に比べて多くなる傾向が依然としてみられる。要因としては学生生活への慣れや気持ちの緩みが考えられるが、今後とも学生指導の上で留意すべき検討課題である。

(4) 免許状・資格取得状況

① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

	学科・専攻		学年	司書資格	司書教諭資格	小学校教諭一種免許状	幼稚園教諭一種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	4	-	-	141	142	0	142
		こども学コース	2年	1	7	10	6	1	0	11
	乳幼児保育学科第二部		3年	-	-	-	14	14	0	15
	小計			5	7	10	161	157	0	168
非卒業学年	乳幼児保育学科第二部		2年	-	-	-	7	7	0	7
	こども学科	乳幼児保育コース	1年	12	-	-	84	84	0	84
		こども学コース	1年	-	5	7	7	-	0	7
	小計			12	5	7	98	91	0	98
合計				17	12	17	259	248	0	266

② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年				非卒業学年				合計	
	こども学科		乳幼児保育学科第二部	小計	こども学科		小計			
	乳幼児教育コース	こども学コース			乳幼児教育コース	こども学コース				
	2年	2年	3年	2年	1年	1年				
小学	-	1	-	1	-	-	0	0	1	5
幼稚	0	0	1	1	0	0	0	0	1	
保育	1	-	1	2	0	0	-	0	2	
司書	0	1	-	1	-	0	-	0	1	
小学・司書	-	-	-	0	-	-	-	0	0	236
小学・司教	-	3	-	3	-	-	0	0	3	
幼稚・司書	0	-	-	0	-	0	-	0	0	

幼稚・小学	-	2	-	2	-	-	2	2	4	
幼稚・保育	137	-	13	150	7	72	-	79	229	
保育・司書	0	-	-	0	-	0	-	0	0	
小学・司書・司教	-	-	-	0	-	-	-	0	0	24
小学・幼稚・司書	-	-	-	0	-	-	-	0	0	
小学・幼稚・司教	-	3	-	3	-	-	5	5	8	
幼稚・保育・司書	4	-	-	4	-	12	-	12	16	
小学・幼稚・司書・司教	-	-	-	0	-	-	0	0	0	1
小学・幼稚・保育・司教	-	1	-	1	-	-	-	0	1	
無免許・無資格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	142	11	15	168	7	84	7	98	266	

注)

・表中の表記は以下のように省略する。

中学：中学校教諭二種免許状 小学：小学校教諭二種免許状 幼稚：幼稚園教諭二種免許状 保育：保育士資格

司書：司書資格 司教：司書教諭資格 秘書：秘書士資格

③ 成果と課題（点検・評価）

平成20年度においては、こども学科と乳幼児保育学科第二部がすべての学生が教員免許状や保育士資格の両方あるはいずれかを取得していることから、免許状や資格取得に対して、学生は意欲的であることがうかがえる。その中でも、非常に高い比率で2つ以上の免許状と資格を取得していることは、入学時の所期の目的を果たして卒業しているといえよう。

来年度は、このような資格取得に意欲的な学生に対しては、保育・教育の専門職者として役立つであろう「ピアヘルパー」や「レクリエーション・インストラクター」などの資格も取得できるよう準備を進めていきたい。

(5) 教育実習・保育実習・介護等体験

① 実習等の位置づけと目標

こども学科及び乳幼児保育学科第二部には、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コース及び乳幼児保育学科第二部では、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1年次に施設実習、2年次に教育実習、保育実習、介護等体験などが組み合わされ、いずれもこれらの実習は、次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や保育の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すものである。次に、教育や福祉の現場に触れることによって、自らの将来像を見つめ、教育や福祉に関する造詣を深めることである。

② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は「実践研究」の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は、各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を観察し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価票などを参考にしながら、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

(a) 小学校教育実習

平成19年度の「初等教育学演習」（小学校実習の事前指導を目的とした授業）と平成20年度の「実践研究（小学校）」（事前指導）を通して、小学校実習における心構えやサービスの諸注意等の理解、また、授業計画の立て方等、実践的な教授技術の養成を行った。また、「実践研究」では、模擬授業を行うことにより授業実践力を培うことができた。模擬授業の反省会では学生同士がお互いを高め合う活発な意見交換が行われ、有意義なものとなった。教員採用試験では、数名が1次試験は通過したものの2次試験で不合格となった。しかし、実習校からの評価は高く将来に期待が持てた。模擬授業などを通じた更なる実践力の養成とともに、採用試験に対する早い段階からの指導が必要である。

○ 小学校教育実習概要

実習期間	実習生数（単位：人）	実施校数（単位：校）
平成20年10月6日～10月31日	10	10
合計	10	10

(b) 幼稚園教育実習

基本的にはこれまでの指導体制、方針を踏襲した。1年次には「幼稚園教諭論」「教育原理」の履修、単位取得を条件に実習参加に向けた指導を行い、特に「幼稚園教諭論」においては、実習園の選定、連絡調整を行った。これは、授業と実習指導との事実上の協力体制によるものであり、必然的に授業に関わる学生や教員の動向を実習事務担当者が支えることとなった。このことは学生にとって実習に参加する際にも善い意味で大きな援助となり、実習事務担当者が学生に具体的な助言をしたり、実習園との連絡や調整を行ったりと身近な支援体制を構築することができた。

2年次に履修する「実践研究」が実質的な実習事前事後指導ではあるが、前半実習の事前指導回数が十分に確保できず、前年度末に前倒しをして指導を行った。幼稚園実習は前半、後半とも他の実習の成果や課題を受けて実習審査を行うことから、学生の実習に臨む意識を1年次の早い段階から育てていかなければならないと痛感している。そこでは学生の意欲や認識が錯綜したり、混迷したりしないためにも施設、幼稚園、保育所各実習の内容を総合的、横断的な領域から捉え直すなど、服装・身なり・言葉・礼儀・お礼状・指導案等々を指導する授業・学習体制の確立が検討されることが大きな課題と考える。実習は地域に本学の指導内容やそのレベルを具体的に提示する機会としての意味をもち、専門職としての、またそれを支える生活者としての資質の育成を、理念から、また、指導方法からしつかり検討する必要がある。

○ 幼稚園教育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前期	平成20年5月26日～6月7日	161	121	こども学コース2年 乳幼児保育コース2年 乳幼児保育学科第二部3年
後期	平成20年10月14日～10月27日	152	118	乳幼児保育コース2年 乳幼児保育学科第二部3年

(c) 保育所保育実習

実習を実施するにあたっては、「実践研究」の授業を中心に事前・事後指導を行った。事前指導においては保育所保育指針を参考に保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。また講義だけでなく、外部からの講師も招聘し、実習にあたっての留意点や心構えなどを伺った。

実習中は、電話での個別相談や、巡回指導を通じて実習の把握や指導を行った。

事後指導については、実習のまとめや反省を作成させた。また、それらと園からの評価表を用いて個別の面接を実施し、今後の課題などを話し合い、保育者としての役割について改めて認識を深めるよう指導を行った。

大半の学生は大過なく実習をこなし、その評価はおおむね良好であった。しかし、少な

からず問題も見受けられた。第 1 点目として、体調管理が不十分で園を休む学生が何名かいたことである。夏の暑い時期での実習ということ、また 22 日間の連続の実習ということもあり、身体面がダメージを受けやすいといったことが考えられた。第 2 点目として、実習日誌の提出が遅れる学生が数名いたことである。第 3 点目として、学生自身が自分で計画し、実行し、振り返るといった自主自立の精神が少ないという点である。園からの指摘でもあったが、「言われたことはちゃんとできるが、自分で何かをやる」といった積極的な姿勢が足りない」ということが多く聞かれた。これらの反省点を次年度の課題としたい。また、厚生労働省関東信越局から連続 22 日の実習は好ましくないとの指摘があり、実習日程の見直しが必要である。

○ 保育所保育実習概要

実習期間	実習生数 (単位:人)	実施園数 (単位:園)	実施学科・学年
平成 20 年 6 月 30 日～7 月 30 日	144	130	乳幼児保育コース 2 年
平成 20 年 6 月 30 日～7 月 30 日	11	10	乳幼児保育学科第二部 3 年
合計	155	140	

注)

・日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(d) 施設実習

本学では、「施設実習」を「幼稚園実習」・「保育所実習」に先立つ、はじめての実習として実施している。施設実習においては、他の二つとは異なり、学生本人の希望する施設ではなくて、原則的に大学が決めた施設を学生に紹介し実習させている。ただし遠方より来学している学生や、特に、学生本人が強く希望した場合、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、こども学科専任教員 12 名が、近県はもとより、長野県、福島県、山形県等の施設も訪問した。

○ 施設実習概要

実習期間	実習生数 (単位:人)	実施施設数 (単位:園)	実施学科・学年
平成 20 年 7 月 7 日～7 月 19 日	6	3	乳幼児保育学科第二部 2 年
平成 20 年 11 月 19 日～平成 21 年 3 月 30 日	82	50	こども学科 1・2 年 科目等履修生
合計	88	53	

注)

・日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(e) 介護等体験

介護等体験実習事前指導については、前年度の平成19年度後期授業から実施した。講義においては社会福祉施設、養護学校の概要、役割、機能等についての理解を深めるとともに、実際に車イスを使用し、操作や介助の方法を学ぶことにより、具体的な介護の基本的部分についての取り組みにも努めた。こども学コースの小学校教諭2種免許の取得を希望する学生が、平成20年5月下旬から平成21年1月中旬に社会福祉施設において、また、平成20年9月25日～26日に埼玉県立行田養護学校において介護等体験実習を行った。短期間の実習ではあったが、それぞれの学生が明確な目的を持って実習に取り組む姿勢が見られた。また、学生たちは支援が必要な生徒や施設利用者の方と接することにより、コミュニケーションの取り方など新たな課題を持つことができたと思われる。今後は、実際の介護や支援方法について等、実技の授業の充実を図っていかねばならないと考える。

③ 成果と課題（点検・評価）

各実習とも、適切な事前事後指導が行われており実習先からも概ね良好な評価を得ることができた。しかしながら若干の学生は厳しい評価を下されているのも事実である。その原因は、当該学生の保育者・教育者としての資質や技術の問題というよりも、実習に臨む意識の低さにあると考えられる。今後は指導重点項目として事前指導における実習の意義の教授を強化し、実習生全員が実習に対し高い意識をもつとともに真摯な態度で臨めるようにすることが必要である。また、各実習において指導されていることが重複している場合も多く、各実習の担当者間で指導内容の情報交換を行い、効率的に実習指導ができるよう努力することも必要である。

2年間で多くの実習を行う本学においては、実習時期の検討も今後の課題と考えられる。

(6) 授業内容と教育方法の工夫・研究

① こども学科

各教員は、理論と実践の融合させた即戦力として役立てる専門職の養成を目指し、授業内容と教育方法の工夫を行っている。具体的には、授業内容においては、できるかぎりフィールドワークから得られた現場の事例を一般化した内容として学生に教授し、授業方法としては、従来型の板書に頼るだけでなく、パワーポイントなどで作成した資料を、プロジェクターを利用して提示するなど学生が理解しやすい授業を行っている。さらに、学生にとって授業をより興味深いものとし、学生主体で展開するために、グループワークや模擬授業を積極的に取り入れた。また、授業内容をより確実に学生自身のものとするために、ワークシートなどでフィードバックを実施している。

② 乳幼児保育学科第二部

各教員は、こども学科と同様に、理論と実践の融合させた即戦力として役立てる専門職の養成を目指し、授業内容と教育方法の工夫を行っている。特に乳幼児保育学科第二部は1クラスの学生数が7名または14名と少人数なため、個々人の発言や発表の機会が多く、質疑応答形式のより個に行きとどく個別指導ともいえる授業が行われた。

③ 成果と課題（点検・評価）

平成20年度は、各教員が個々の授業をより魅力的なものとするために、研究日を利用して小学校や幼稚園、保育所などでフィールドワークを行い、それらを授業に活かしていったことは評価ができる。このような教員の積極的な姿勢は、各種学会での教員の授業実践の発表に留まらず、学生もその影響を受け、保育士養成協議会の発表会において学生グループが授業と実習から学んだことの発表を行った。

このように平成20年度は成果の年だったと言える。しかし、これに満足することなく、今後とも各教員は研究と授業方法の工夫を続け、これを教員間相互の連携を図りながら、授業内容と教育方法をより一層充実させていきたいと考える。

(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

① 実施経緯

本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を図れるものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、以下の要領で「学生による授業評価アンケート」を実施した。

○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 アンケート調査の所轄は教務課とする。2 対象科目について<ol style="list-style-type: none">(1) 調査対象科目及び時期<ol style="list-style-type: none">(a) 対象科目：全科目（半期科目及び通年科目）(b) 科目種類：講義・演習・実習・実技(c) 実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業(2) 調査実施手順について<ol style="list-style-type: none">(a) 教務課において実施要項及びアンケート用紙を準備(b) 調査実施の授業前に、担当教員は教務課において実施要項及びアンケート用紙を受け取り、授業終了20分前にアンケート用紙を配布し、主旨・方法を説明し実施する。(c) 回収後、アンケート用紙は教務課において保管 |
|--|

(3) 調査結果の集計について

教務課において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の閲覧に供するようになると共に、同課において集計処理する。

(4) 調査結果の公表について

集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対しての感想や改善策を提出してもらう。

(5) アンケート内容について

授業評価にとって重要なアンケートの質問事項は、数回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実技・実習用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。

② 集計結果

(a) 学生の授業への取組について

学生の授業への取組についての、各事項の学期別集計結果は以下のとおりであった。質問事項の項目 1 は出席状況を、項目 2 は授業への姿勢を、項目 3 は授業に対する予習・復習などの実施状況を調査している。

学生自身の授業の取組に対する自己評価であるが、出席状況に関しては、前期後期とも欠席回数 0 回が多いが、後期になるとその割合が減少している。また、受講姿勢は、一年間を通して安定している。さらに、授業に対する予習復習については、前期に比べて後期のほうが、積極的に取り組む学生の増加が顕著である。

○ 集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	52.4%	26.4%	12.7%	4.1%	1.8%	2.5%	0.2%
2	46.6%	36.4%	12.2%	1.5%	0.8%	2.5%	0.0%
3	23.0%	22.7%	28.3%	14.0%	9.5%	2.5%	0.0%

○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	39.4%	27.9%	17.4%	8.6%	3.4%	3.1%	0.2%
2	47.6%	35.0%	13.1%	0.8%	0.6%	2.9%	0.0%
3	31.1%	24.2%	24.5%	8.8%	8.6%	2.8%	0.0%

注)

- ・項目 1 「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」
- ・項目 2 「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」
- ・項目 3 「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

(b) 授業内容について

授業内容に関する各質問事項についての学期別集計結果は、それぞれ以下のとおりであった。全体的には、両学期とも「1：思う 2：まあまあ思う」の好評価が過半数を大きく越え、加えて言うならば、前期より後期の方が、評価が高くなっていることが窺える。また、各質問事項別の傾向としては、質問 5「授業の内容が興味深く、関心が持てたか。」において前期より 4.5 ポイント、質問 9「教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。」において前期より 5.6 ポイントの、比較的大きな上昇が特筆できる。

○ 集計結果（前期）

質問 \ 評価	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	47.6%	30.7%	15.2%	2.2%	1.6%	2.7%	0.0%
5	49.7%	29.5%	13.9%	2.7%	1.6%	2.5%	0.0%
6	57.6%	24.4%	11.9%	2.1%	1.2%	2.7%	0.0%
7	54.0%	24.7%	13.8%	3.2%	1.9%	2.5%	0.0%
8	49.3%	27.9%	15.5%	3.1%	1.6%	2.5%	0.0%
9	47.8%	28.4%	14.5%	3.3%	1.6%	4.3%	0.0%

○集計結果（前期）

質問 \ 評価	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	51.0%	29.0%	13.1%	2.4%	1.1%	3.3%	0.0%
5	54.2%	27.0%	13.2%	1.7%	1.0%	2.9%	0.0%
6	59.3%	23.5%	11.6%	1.7%	1.0%	2.9%	0.0%
7	57.0%	23.8%	12.9%	2.4%	1.0%	3.0%	0.0%
8	53.1%	26.2%	14.4%	2.2%	1.0%	3.1%	0.0%
9	53.4%	24.5%	14.1%	1.9%	1.3%	4.8%	0.0%

注)

・ 1：思う 2：まあまあ思う 3：どちらともいえない 4：あまり思わない 5：思わない

③ 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、前期・後期末に専任教員の全科目と希望する非常勤教員の授業について実施した。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすいよ

○ 資料：「学生による授業評価アンケート」調査用紙（用紙 B）

学生による授業評価アンケート調査用紙・用紙 B（実験・実習・実技）

（ ）曜日 （ ）時限 科目名（ ） 担当教員（ ）

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも、自分の選んだ数字をマークしてください。

〔I〕授業への姿勢について

該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

〔II〕授業内容について

該当する項目を○で囲んでください。

評価基準 [1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問8 授業の進め方が適当であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問9 教材（テキスト・視覚教材・板書・配布資料など）・教具（設備使用）などが適当であったか。
[1] [2] [3] [4] [5]

質問10 この授業に出てあなたの将来にとって役に立つ知識、技能または考え方が得られたか。
具体的にどんなものが得られたか書いてください。（ ）

質問11 この授業を通して自分の考え方が変わったか。
具体的にどんなふうに変ったか書いてください。（ ）

〔III〕この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。（必須）（ ）

IV 学生生活

1 学生の動向

(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

① 平成 18 年度入学生

学科・専攻	入学者数	在学者数	卒業生数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
乳幼児保育学科第二部	19	—	13	0	5	1	0

② 平成 19 年度入学生

学科・専攻	入学者数	在学者数	卒業生数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数	
こども学科	乳幼児保育コース	143	-	141	0	1	0	1
	こども学コース	12	-	11	0	1	0	0
乳幼児保育学科第二部	8	6	-	0	2	0	0	
合計	163	6	152	0	4	0	1	

③ 平成 20 年度入学生

学科・専攻	入学者数	在学者数	卒業生数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数	
こども学科	乳幼児保育コース	83	81	-	0	3	0	0
	こども学コース	8	7	-	0	0	0	0
乳幼児保育学科第二部	-	-	-	-	-	-	-	
合計	91	88	-	0	3	0	0	

(2) 学生の動向

① こども学科

平成 20 年度入学生は、91 名であり、乳幼児保育コース 83 名、こども学コース 8 名であった。入学後、こども学コースに在籍している学生 1 名が、転コースを希望し承認された。また、クラス編成は乳幼児保育コースの学生 84 名を A・B の 2 クラスに分け、こども学コースの学生 7 名を C クラスとした。落ち着いた学生が多く、入学当初の全体指導の効果もあり、けじめある学生生活を送ることができた。1 年次における退学者は 3 名であった。

2 年生は、入学時 155 名在籍していたが、1 年次に 1 名の退学者を出したため、154 名のスタートとなった。乳幼児保育コースでは、在籍している学生 1 名が個人な事情により休

学をしたため 141 名を A,B,C,D の 4 つに分けるクラス編成を行った。また、こども学コース 12 名を E クラスとした。活発な学生が多く、やや落ち着きに欠ける面も見られたが、実習等の経験や学習を重ね、2 年生としての自覚を増した。こども学コース 1 名が留年したが 152 名が卒業した。

② 乳幼児保育学科第二部

乳幼児保育学科第二部の募集停止により、平成 20 年度は、2 年生と 3 年生の 2 学年体制となった。

2 年生は、少人数で、相互理解が図られ、協力的で和やかな関係が成立している。一部の配慮を要する学生に対する対応などいくつかの学級経営上の困難な事柄もあったが、大学全体での協力・支援体制、そして他の学生の理解やリーダー的存在である学生の牽引力によって乗り越えることができた。

3 年生は、クラス内のいくつかのグループの特性が、授業の取り組みや大学生活に大きく影響を及ぼし、機会を捉えては、それらを良い方向に活かすべき働きかけを心がけてきた。途中、家庭の事情や本人の進路変更などを理由に退学をする学生もおったために、他の学生への影響にも配慮しながら、個々の実情に応じた相談や対応を講じた。中には、資格や免許を活かした進路に踏み出せない学生もおり、入学時の目標や意欲を維持させる難しさを改めて感じた。

(3) 成果と課題 (点検・評価)

こども学科も乳幼児保育学科第二部もそれぞれにおおむね順調であった。しかしながら、昨今、どこの学校でも問題となっている大学に不適應を起こす学生も一部に見られた。このことに対しては、クラス担任や大学カウンセラーはじめ学生部長や教務部長も指導にあたった。しかしながら、十分に対処できたとはいえ、今後、さらに起こりうる問題として考え、検討していきたい。

2 クラス担任制度

(1) こども学科

平成 19 年度は、2 年次において「総合演習」の担当者が担任業務を行った。週に 1 度、定期的に総合演習の時間に学生と顔を合わせコミュニケーションをとることできるなどメリットもあったが、教員間の担任業務に対する認識の違いなどもあり、検討課題でもあった。平成 20 年度は、クラス数が減少し全クラスに教員を担任として配置できる環境が整ったことや、昨年度の反省から 1 年次、2 年次全てのクラスに担任を配置した。

1年次では、入学後の個人面談により学生の初期不安を取り除くことができた。また、その後の定期的な個人面談も学生に安心感を与えた。2年次では、実習や就職等の相談を適宜受け付け、個に応じた指導を行うことができた。両学年とも学年主任を中心に担任間の情報交換や共通理解を大切にし、学年経営を行った。

(2) 乳幼児保育学科第二部

乳幼児保育学科の各学年は、学生一人ひとりの個性や抱える実態がそのクラス集団に直接影響を及ぼすことも多々あり、特に互いの関係における距離が近いこともあって、それらは、日々の気分や雰囲気、授業の展開にまで影響したと言える。このことについて、教員もこども学科の学生への対応とは明らかな違いを感じており、それに応じた関わりや授業構成を図り、また配慮してきた。大学から学生への様々な連絡や施設利用に関する状況の整備など、社会経験もある第二部の学生への様々な対応や学生生活の保障の面では反省すべき点も多かった。

(3) 成果と課題（点検・評価）

本学の特徴のひとつである「学生ひとり一人を個と捉えた教育と指導」を推進するために欠かせないのが、このクラス担任制である。新入学生もクラス担任がいることで、大学への不安も薄らいだとの感想を述べている。また、人間関係・学業問題・経済的問題・就職問題など、すべての学生の共通の悩みなども、担任制をとっていることで相談することが容易となり、早期の解決ができていることは評価できる。

一方、教員間の個性などもあり、相性の善し悪しも多少見られた。これもクラス担任をはじめ各教員が情報交換を密にすることで、だいぶ解消されたと思われる。今後は、さらにこの情報交換を頻繁に行い、情報共有を一層進めて学生が不安なく、学生生活を有意義に送れるよう努力していきたい。

3 学外における研修

(1) こども学科学外研修

① 実施概要

平成20年度の学外オリエンテーションは、国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）を会場として1泊2日の日程で行われた。研修の目的は、「学外での生活の中で同級生との交流を通して、親睦と相互理解を図る」である。また、教職員との交流を図ったり、教務関係の説明を受けながら時間割作成をすることで、今後の学習生活に思いを馳せることにも

ある。

平成 20 年度の学外オリエンテーションは、このような趣旨のもと、学生 92 名と教職員 15 名が参加し、以下のプログラムに従って実施された。

○ こども学科学外オリエンテーションプログラム

平成 20 年 4 月 3 日 (木)		平成 20 年 4 月 4 日 (金)	
時 間	内 容	時 間	内 容
11:30	受付(本館ロビー)・荷物は各自で管理する	7:00	起床 ・洗面・身辺整理
12:00	昼食(本館食堂)・お弁当が用意されています	8:00	朝食(本館食堂)・終了後、宿泊室の清掃
12:40	移動(体育館へ)	8:50	清掃
13:00	開会の集い ・学長あいさつ・オリエンテーション ・職員紹介 ・会館の方からの話 移動・着替え	9:20	各部屋の鍵返却・鍵返却後、移動 レクリエーション
14:00	ワークショップ(各会場) 終了・休憩	12:00	清掃・片付け 解散
16:30	チェックイン(宿泊棟へ) ・鍵受け渡し ・避難経路確認 ・休憩	研修場所	A 班：草信 T (中会議室) B 班：浦 T (206 研修室) C 班：本多 T (207 研修室) D 組：高木 T (調理室) E 班：ベ T (音楽室) F 班：木許 T (郷書院)
18:00	夕食(本館食堂)・夕食後、休憩		
19:00	研修 ・レクリエーションの準備 ・グループごとの準備や打ち合わせ ・仲間との活動 ・自己紹介等		
20:50	研修終了・移動(本館へ)		
21:00	入浴・自由時間・就寝		

② 成果と課題(点検・評価)

友達関係がまだ固定されていない入学直後に宿泊研修を行うことで、むしろ先入観なく、集団意識を高めるきっかけを作ることができた。また、レクリエーションやグループごとの表現活動を通して、今回の研修の中心的な目的である相互の親睦を図ることができた。

グループごとの学習発表では、成果はもとより、練習などの取組みの過程での出来事を通して、おぼろげながらも学生生活における自己変容の可能性を一人ひとりが認識できたのではないと思われる。また、そうした学生の姿に接することで、教員も学生の実態を把握すると共に、初期のレポート作りができ、大変有意義であったと考える。

今後、全人的な教育を掲げ、2年間目標や意欲をしっかりと持続させるためにも、履修指

導のみならず、2年間の学生生活を見通した学生生活設計なるものをデザインさせる機会を設けるのが大切と考える。

(2) 乳幼児保育学科第二部学外研修

平成20年度の学外研修は、新入生がいないため行われなかった。

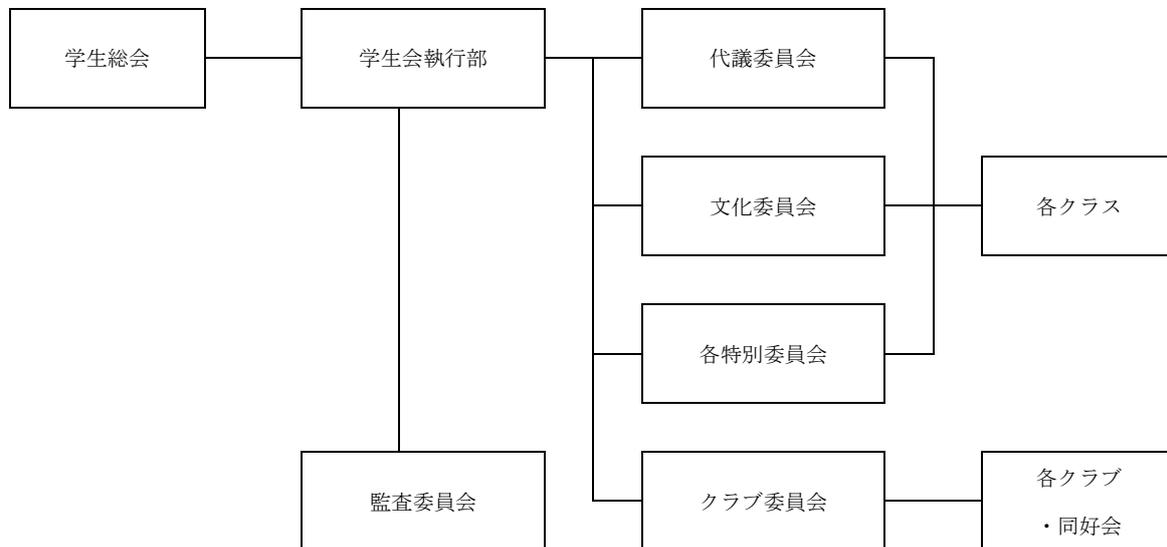
4 課外活動

(1) 学生会

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織である。全学生が加入し、学生部長（学生委員長）・学生委員会委員（教員）・学生事務担当者等の指導助言を受け、執行部を中心に主催行事等の企画・運営にあっている。

学生会執行部は、会長1名・副会長2名以内・書記2名・代議委員長1名・文化委員長1名・クラブ委員長1名・各特別委員長1名ずつで構成されている。

○ 学生会組織



(2) 学生会主催行事

① 学生会オリエンテーション

学生会では、年度当初に行われるオリエンテーション期間の最終日に、新入生を対象にした学生会オリエンテーションを実施している。学生会執行部が中心となり学生会組織の説明や、クラブ・同好会の部長や代表者の協力を得て各クラブ・同好会の活動紹介、さらに参加者の交流を目的としたゲーム等を行った。

工夫されたプログラムに、新入生は、本学の学風を敏感に感じ、親しみを持つことができるであろう。また、新2年生は、リーダーとしての自覚を持ち、意識の高さが育っていくようにも感じられる行事となっている。

② スポーツ大会

スポーツ大会は、スポーツを通して学生間のもとより、学生と教員の交流を深めることを目的として実施している。学生会執行部、各クラブ・同好会の部長や代表者、各クラスから選出されたスポーツ大会委員が企画・運営にあたり行われた。

競技を進めていくにつれ、各担任とクラスの団結が深まっていく様子が伺える行事となっていることを付け加える。

③ 純真祭

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。また、学生委員会の教員が学生会の活動をサポートし、学生会主催行事の集大成とされる行事である。春に行われるスポーツ大会終了後、テーマの選定、企画案の策定が行われ、夏季休業中には、協賛金収集の活動が精力的に行われる。2年生にとっては、各実習と純真祭の企画に追われる日々となるが、1年生がサポート役にまわり、うまく機能しているといえるだろう。

○ 学生会主催行事及び学生会執行部が出席した行事一覧

月	行事名
4月	入学式・新入生オリエンテーション・在学生オリエンテーション・健康診断
5月	スポーツ大会（第一部・第二部）
6月～9月	オープンキャンパス
11月	純真祭
3月	卒業式・卒業記念パーティー

(3) クラブ活動・同好会活動

本学のクラブ・同好会活動は、各団体の代表者がクラブ委員会を組織し、学生執行部との連絡を密にして活動の円滑化を図っている。そして、各クラブへの予算配分の立案、決算の報告、代議委員会へ対する提案を行うことができるようになっている。

○ クラブ・同好会一覧

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系 (8)	バレーボール・バスケットボール・陸上・ソフトテニス・卓球・フットサル・バドミントン フィットネス
文化系 (5)	吹奏楽・軽音楽・ハモロウ会・茶道・国際児童文化研究会
福祉系 (2)	ウェルフェア (手話)・スマイル (保育)

(4) 研修活動

① リーダー研修

新2年生の学生会役員・クラブ部長を中心に研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

○ リーダー研修の概要

期 日：平成 21 年 3 月 5 日～6 日 (1泊2日)
場 所：埼玉県民活動総合センター
参加者：学生会役員・クラブ部長
目 的：学生会役員の引き継ぎ及び新学生会役員・クラブ部長としての望ましい資質の養成

○ リーダー研修日程

平成 20 年 3 月 5 日 (木)		平成 20 年 3 月 6 日 (金)	
時 間	内 容	時 間	内 容
10:00	集合 (ロビー)	7:00	起床・身辺整理・清掃
10:30	開会式 (305) ・学生部長・新旧学生会長あいさつ ・参加者紹介・学生会役員紹介 (学生会長) ・各クラブ部長紹介 (クラブ委員長)	8:00	朝食 (食堂)
12:00	部屋割り・諸注意・研修準備・身辺整理	9:00	グループ討議 ・学生会 (201) 新入生オリエンテーション ・クラブ部長 (203)
13:00	昼食 (食堂) オリエンテーション ・1年生 (205) リーダーのあり方	10:15	部員募集要項の作成・勧誘について
		10:30	休憩 グループ討議
		12:00	各グループの続き・終了後、宿泊室の

	コミュニケーションスキルを学ぶ 「グループワーク」	13:00	清掃 昼食（食堂）
14:45	・2年生（202）年間行事の体験発表準備		全体会（進行：学生会副会長）
15:00	休憩 グループ討議	14:00	・グループ討議の報告 片付け・清掃
	・学生会（205 セミナー室） 昨年度の状況把握・新年度の活動計画		閉会式 ・学生会長あいさつ・文化部長あいさつ
16:45	・クラブ部長（204 セミナー室）	14:30	・講評（学生部長）
18:00	昨年度の状況把握・新年度の活動計画		解散
19:30	休憩・移動		
23:00	夕食（食堂）・入浴 グループ討議・各グループの続き・就寝		

（５） 成果と課題（点検・評価）

平成 20 年度においても、学校行事等、学生の自主的な活動の取組みを教職員がサポートしていく形で行われた。本年度も学生会が中心となり、スポーツ大会や純真祭等のイベントを学生全員で盛り上げられたことは、このリーダー研修が十分な成果をあげられたことと考える。また、新たな取り組みとしてはリーダー研修会の研修最初のプログラムにおいて、教員による「グループワーク～コミュニケーションスキルを学ぶ～」を 1 年生対象に行うことにより、平成 21 年度に本学の学生リーダーとなる自覚を促した。

今後については、学生数が減少する中での学校行事の企画・運営を見直しが課題となるといえよう。

5 学生生活への配慮・支援

（１） 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年 4 月に行われるオリエンテーションにおいて、「日本学生支援機構奨学金」の申込み・利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。なお、本学で利用できる奨学金の概要は以下のとおりである。

○ 奨学金一覧

名 称	概 要
日本学生支援機構奨学金	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。
あしなが育英会奨学金	1967年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害により死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等に変更、経済的援助する奨学金である。

(2) 健康管理

身体の健康は、学生生活を可能にする基礎であり、学習を行う土台であるが、本学では学生の健康管理のために次のような措置をとっている。

① 保健室

学内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、年度当初のガイダンスで健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙は、本学では学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

(3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって、傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に全員加入している。入学と同時に加入することから、学内では学生事務担当者が保険について管理している。

(4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生専用アパートを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年 2 回、教職員も参加する「自宅外通学生懇親会」を開催している。懇親会では、1 人暮らしをしている学生同士の親睦をはかることを目的としているが、先輩から 1 人暮らしについてのアドバイスを聞くことのできる場や教職員とコミュニケーションをはかる場にもなっており、今後の充実した学生生活の一助となっている。

なお、学生委員会の教員及び学生事務担当者は、月 1 回程度のアパート巡視を行い、学生の生活指導や相談にのるよう努めている。

(5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近隣の諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学可能な多くの学生は、羽生駅まで J R 高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道秩父線などを利用し、羽生駅からは徒歩または自転車で通学している。遠隔地出身で上記アパートなどに居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、羽生駅と学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動二輪車（オートバイ）については、人命にかかわる事故の危険度が高いため、通学の手段としては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けるとともに、自動車通学希望者を対象に利用説明会を行い、安全運転や駐車マナーについて指導した上で、学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況一覧

(単位：人)

自転車駐輪場	42
自動車駐車場	71

(6) 学生相談室

学生相談室は、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：青木 万里（こども学科専任講師）

相談場所：学生相談室

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別来談者実数：本年度の来談者実数は 22 名で、主訴内容は次のとおりであった。（括弧内は主訴数：件）

心理・性格（6）・心身の健康（5）・人間関係（家族・友人・教員・その他）（9）・履修・勉学（1）・その他（1）

そのほか、教職員へのコンサルテーション(13)を行った。

本年度は相談員の交代があった。4 月には新入生を対象にした心理テストを行い、学生生活への適応支援を行った。学生の中には高校時代より心身の不調を抱え、医療機関で治療を継続中の学生もいる。このため相談員としては、学内の教職員間の連携を図りながら、学生が出来るだけ不安を持たずに学業・実習を進め、学生生活を有意義に過ごすことが出来るよう努めた。

（7） 成果と課題（点検・評価）

平成 20 年度については、学生生活において特に大きな問題発生はなかった。昨年同様学生相談室への相談件数は増加している中で、学生一人一人の対応に教職員一丸となって取り組んだ結果と思われる。専用アパートで生活している学生へは、月 1 度程度の巡回指導を行うなど、心身の健康管理にも気を配ることによって、親元を離れて生活する寂しさの緩和などに役立てたと考える。

多様化する学生たちの心身の不調に適切に対応できるよう、今後さらに教員間の情報交換や連携を密にしていくことが課題といえよう。

V 就職と進学

1 就職

(1) 就職指導

① 就職委員会の基本方針

専任教員による学生の就職・進路に対する支援体制であり、就職ガイダンスをはじめ、進路相談や履歴書の作成、模擬面接、礼状の作成など学生個々に対応した指導を行った。

これまでの取組を踏襲しつつ、学生や求人先の実情を考慮しながら指導を行った。こども学科及び乳幼児保育学科第二部の場合、求人先と教育・保育実習先との関わりが深く、実習指導との連携や一体化を心がけた。

② 平成 20 年度年間就職指導計画

○ 平成 20 年度就職指導年間計画一覧（平成 20 年度卒業生対象）

期 日	ガイダンス内容
平成 20 年 4 月 7 日	就職についてのガイダンス
4 月 22 日・24 日	企業・公務員（行政・保育士・幼稚園教諭・司書・警察）コース別指導
5 月 13 日・15 日	公務員試験・保育士採用試験対策指導、書類作成の方法、求人票についての説明
6 月 24 日・26 日	実習前就活指導、群私幼・保、栃幼連の事前説明
平成 21 年 1 月 22 日	卒業生による職場紹介（幼稚園教諭・保育士）
随 時	履歴書作成、就活（連絡・見学等）相談、模擬面接等

○ 平成 20 年度就職指導年間計画一覧（平成 21 年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成 20 年 9 月 2 日・4 日	就職についてのガイダンス
10 月 7 日・9 日	公務員（行政・保育士・幼稚園教諭・司書・警察）コース別指導、模擬面接等
11 月 11 日・13 日	幼稚園教諭・保育士・施設職員コース別指導、就活本番に向けて（現況報告等）
12 月 9 日・11 日	履歴書作成について、今後の取り組みについて（予定）
平成 21 年 1 月 22 日	卒業生による職場紹介（幼稚園教諭・保育士・施設職員）

③ 学科別の就職指導

具体的な指導として、1年次後期に就職登録幹旋カードに現時点での自己の進路希望を記入させ、個に応じた指導に生かすために担当者が管理した。エントリーシート・履歴書等の作成、保護者会における指導・相談体制の説明、就職ガイダンス（一斉指導）等を展開し、特に就職ガイダンスでは、就職活動の心構え・マナー、業界・業種に関する調査や理解の促しを学科別に指導した。また、求人票の送付依頼、求人先の開拓、求人票や企業情報の収集整理、合同企業説明会等の情報収集と掲示、相談に訪れた学生に対する個別の指導・対応を行った。特に、こども学科では教育・保育実習との関連を生かし、各職種・領域についての情報を収集し、適宜、対応を図るために、就職委員の専門性に応じて、企業・公務員・学校教員・幼稚園教諭・保育士・施設職員等各領域の指導担当を割り当てた。乳幼児保育学科第二部は、少人数であるために、各人への個別指導を中心にしながら随時必要に応じて願書の作成や試験対策を行った。

④ 就職関連諸会合への参加

平成20年度も各地で行われる就職関係の情報交換会や連絡調整会等に、就職事務担当者をはじめ、専任教員が参加した。これによってこども学科および乳幼児保育学科第二部では、隣接県の私立保育所・幼稚園連盟等と連携し、保育現場で求められる人間像や専門的な資質を把握し、それに応える人材育成に力を注ぐことができた。これらのことから、両学科とも早期に就職が決定するなど、学生にとって安心して修了の時期を迎えることができた。統一試験を設けている地域では、就活の期間が限られており、実習や諸行事等の予定もふまえながら今後一層、学生の積極的な取組を促す計画を講じていく必要があると考える。また、各機関との連携をより密にし、本学の特色と行き届いた指導の良さを出せるよう就職支援を展開しなければならないと考える。

(2) 平成 20 年度就職状況

① 就職内定状況

○ 平成 20 年度卒業生進路一覧

(平成 21 年 3 月 31 日現在・単位：人)

	こども学科		乳幼児保育学科	合計
	乳幼児保育コース	こども学コース		
学生数	141	11	13	165
就職希望者数	131	8	11	150
就職決定者	小学校教諭	—	6	7
	幼稚園教諭	65	2	69
	保育士	59	—	64
	その他の施設	1	0	4
	司書	0	0	0
	企業	5	0	0
未決定者	4	0	0	4
進学者	2	1	0	3
その他	5	2	2	9

② 就職内定先等内訳及び内定先一覧

	就職内定先
小学校	加須市立小学校・東秩父村立東小学校
幼稚園	いなほ幼稚園・すみよし幼稚園・かみたの幼稚園・佐野みのり幼稚園・かわたや幼稚園・薬師寺幼稚園 なでしこ保育園・しま幼稚園・羽川幼稚園・しろがね小室幼稚園・たから幼稚園・まつたけ幼稚園 やごう幼稚園・たちばな幼稚園・愛隣幼稚園・ひかり幼稚園・安行東光幼稚園・古河文化幼稚園 伊奈はなぞの幼稚園・五霞幼稚園・久喜みなみ幼稚園・宮代幼稚園・原市文化幼稚園 戸田第一幼稚園・杉の子幼稚園・荒川幼稚園・幸手さくら幼稚園・行田幼稚園・坂戸あずま幼稚園 有明幼稚園・春山幼稚園・庄和こぼと幼稚園・上尾ことぶき第二幼稚園・新郷松原幼稚園 新田幼稚園・神保原幼稚園・吹上中央幼稚園・翠ヶ丘幼稚園・清浄院幼稚園・増子幼稚園 大山幼稚園・第二幸手幼稚園・谷塚幼稚園・東光寺幼稚園・桃園幼稚園・南越谷幼稚園・白菊幼稚園 八潮幼稚園・彦成幼稚園・宝光寺幼稚園・北越谷幼稚園・北本みなみ幼稚園・茂幼稚園・老本幼稚園 まどか幼稚園・鷲宮幼稚園・えのき幼稚園・ひまわり幼稚園・太田いずみ幼稚園・太田仁愛幼稚園
保育所	うらわライトハウス保育園・なみのり第二保育園・こざくら保育園・なでしこ保育園・とねの会保育園 庄内町立保育所・なかよし保育園・さくらだ保育園・びい〜んずくらぶ・フェアリーキッズ保育園 やなぎ保育園・ホザナ保育園・レオ保育園川口・加須保育園・花園第二保育園・三俣第一保育園 小島保育園・小林保育園・新宿保育園・須影保育園・仙元山保育園・第二はちの巣保育園

	ことぶき花ノ木保育園・久喜市立保育所・小千谷市立保育所・第二くるみ保育園・丸山記念総合病院 熊谷総合病院・星の子幼児園・太田保育園・若葉保育園・まつばら保育園・育実保育園 にしのもり保育園・蕨川保育園・飯田保育園・こぼと保育園・あおば保育園・つくし保育園・小山市立 保育所・はなぶさ保育園・境いずみ保育園・古河浅井保育園・五霞保育園・終保育園
施設等	埼玉県社会福祉事業団・まきば園・玉淀園・永寿荘
企業	KBF・JENNY・Barbie・ミキハウス・笹井商店・セイホクススポーツ株式会社・ライフサポート株式会社

(3) 成果と課題 (点検・評価)

個別の指導を繰り返し行い、就職希望者のほとんどが無事就職することができた。就職ガイダンスへの参加状況や就職支援室への来訪状況を把握しながら声掛けを行い、学生の動向を把握していたが、中には、年度末にさえ進路決定ができない学生もいた。今後、学年や担任との緊密な連携を図り、学生の意欲を促す指導を講じる必要があると考える。

2 進学

(1) 編入学

本学卒業後、4年制大学に編入学を希望する学生が増えている。それらの学生たちは、本学で取得できる免許状（小学校教諭・幼稚園教諭）がそれぞれ二種免許状であるため、一種免許状を取得して、将来、教員採用試験に臨むことを考えている。これに対し、就職委員会及び就職事務担当者によって、編入学の説明会を行い個別に指導・対応している。

○ 平成20年度編入学先一覧

聖学院大学（人間福祉学部）：1名、東京家政大学（児童学科）1名

(2) その他の進学

若干ではあるが、4年生大学以外の進学として、専門学校・専修学校への進学者がいる。この学生についても、就職委員会及び就職事務担当者によって、編入学の説明会を行い個別に対応している。

○ 平成20年度進学先一覧

国際音楽院専門学校：1名 埼玉純真短期大学（科目等履修生）：1名

(3) 成果と課題（点検・評価）

より高い専門性を身に付けた保育者・教育者を目指す学生が、進学を希望していることは言うまでもない。中にはキャリアアップに際して社会実績を要件とする領域のものもあり、進路決定には適切な指導や情報提供が必要であると言える。学生の前向きな姿勢と家族の協力や賛同を得た将来をしっかりと見据えた進路相談のあり方一層を検討する必要がある。

3 卒業生への支援

本学では、前年度の卒業生に対し「ホーム・カミング・デー」を開催している。

平成20年度は、8月に2回（8月2日・30日）開催され、会食やゲームを楽しみながら、教職員との交流を図り情報交換を行った。卒業生から寄せられる様々な話は貴重な学生指導の情報として学生支援に役立っている。最近の特徴として、保育職に見られる早期の離職のケースを考えると、こうした機会のほかにも、卒業生が初任期を無事に乗り越えていくための支援体制（現職者、初任者のための相談事業）等を工夫する必要があると考える。

VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動

(1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動・講演・制作活動においても意欲的に携わっている。「埼玉純真短期大学研究論文集」その他の雑誌・著作や講演・制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

(2) 専任教員の研究業績

① こども学科

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
藤田 利久	発表 ・「みんなで守ろう。わが街・わが学校」かわぐち防災ネット研修会・2008年7月 ・「実践的な秘書ビジネス実務教育を目指してーヒューマンスキルを支えるマインドの教育」 秘書サービス接遇教育学会・2008年8月
青木 万里	著書 ・「読むだけでカウンセリング」（共著）株式会社法研・2008年6月・執筆部分：pp.34-35 論文 ・「自己理解セミナー」を実施してー学生の自分に対する捉え方の検討ー」（単著） 日本女子大学カウンセリングセンター報告書第31号 pp.26-39・2008年12月 ・「自己理解に関する文献研究」（単著） 埼玉純真短期大学研究論文集第2号 pp.1-15・2009年3月 発表 ・「学生の自己理解を深める試み（2）」（単独） 日本心理臨床学会第27回大会・2008年9月・つくば国際会議場 ・「卒業を前に漠然とした不安を訴えた学生への森田療法的アプローチ」（単独） 第26回日本森田療法学会発表・2008年11月・九州大学医学部百年講堂
安部 孝	論文 ・「保育士養成機関における「施設実習」の現状と課題（1）ー短期大学「施設実習」に向けた事前指導を通してー」（共著）

	<p>九州ルーテル学園大学・紀要 VISIO 第 38 号・pp.157-170・2008 年 12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「短期大学における「心の教育」の展開 1－価値への近接－」（単著） <p>埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号 pp.17-23・2009 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「短期大学における「心の教育」の展開 2－価値への近接－」（共著） <p>著者：安部 孝・石山 貴章</p> <p>埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号 pp.25-36・2009 年 3 月</p> <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育実践養成における「心の教育」の試み I－ボランティア精神についての考察を通して－」 日本教育学会第 67 回・2008 年 8 月・佛教大学 ・「保育実践につなぐ総合演習の展開（2）－「こころの教育」の構想における課題意識－」 日本教師教育学会第 18 回研究大会・2008 年 9 月・工学院大学 ・「<生活者>としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開（1）」（共同） 日本教育方法学会第 44 回大会・2008 年 10 月・愛知教育大学 ・「<生活者>としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開（2）」（共同） 日本教育方法学会第 44 回大会・2008 年 10 月・愛知教育大学 ・「保育者養成における「心の教育」の課題 1－学生がイメージする保育場面から－」 日本道徳教育学会第 72 回大会・2008 年 11 月・宮城教育大学
井筒 紫乃	<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第 2 3 回全国小学生陸上競技交流大会に出場した優秀選手の身体的・心理的側面と疾走能力について」（共著） <p>（財）日本陸上競技連盟陸上競技研究紀要 Vol.4・pp.34-42・2008 年 7 月</p> <p>執筆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フルマラソンチャレンジブック 2009 「正しく走るには正しく立つことから」（共著） 株式会社 スキージャーナル・執筆分担：pp.14-17
入江 良英	<p>学会発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発達障害の人間科学」早稲田社会学会・2008 年 7 月 ・「特別支援保育とは何か」全国保育養成協議会・2008 年 9 月 ・「ソーシャル・インクルージョンの教育社会学 - 2E 問題を中心として - 」 日本教育社会学会・2008 年 9 月 ・「第 3 の道のソーシャル・インクルージョン」日本社会病理学会・2008 年 10 月
牛込 彰彦	<p>学会発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラットにおける脳内ノルアドレナリン分泌動態から見た心理的ストレスの評価・孤独時と他個体介入時の比較」（共同） <p>マイクロダイアリス研究会・2008 年 12 月 昭和女子大学</p>
浦 由希子	<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み書き障害児に対する指導法の検討」（博士論文）国際医療福祉大学・2009 年 1 月 <p>発表</p>

	<p>・「かな decoding 習得のための Top-down 式読み指導の効果に関する研究」(共同) 日本コミュニケーション障害学会代 34 回学術講演会・2008 年 5 月・大阪市中央公会堂</p>
木許 隆	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校教諭・幼稚園教諭・保育士をめざす音楽の基礎」(共著) 圭文社・2008 年 4 月・執筆部分：pp.63 - 74,pp.75 - 85 ・「手あそび感覚で表現する 手話によるメッセージソング ベスト 25」(共著) 圭文社・2008 年 4 月・編曲：p.36,pp.45 - 46,pp.51 - 52,pp.63 - 64,pp.75,pp.77 - 78, pp.85 - 86,pp.115 - 116,pp.122 - 123,p.135,pp.154 - 156 <p>作曲作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読と女声合唱のための組曲「メッセージ」(単著) 2008 年 12 月 <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育現場における指揮法の一考察」(単著) 埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号 pp.49-52・2009 年 3 月 ・「保育現場における音楽活動ーその 2 5 歳児におけるマーチング導入法ー」(単著) 埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号 pp.53-58・2009 年 3 月 <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「埼玉純真短期大学の予備講習と来年度の更新講習」 第 3 回教員免許状更新講習情報交流連絡会・2008 年 9 月・埼玉大学 ・「学生自ら学ぶ意欲を持つために 「音楽的表現」の授業を通して」 全国保育士養成協議会第 47 回研究大会・2008 年 9 月・函館国際ホテル ・「教員免許講習制に伴う予備講習を終えて (1)」 全国大学音楽教育学会中部地区学会平成 20 年度後期研究会・2009 年 2 月・椋山女学園大学 ・「教員免許講習制に伴う予備講習を終えて (2)」 全国大学音楽教育学会中部地区学会平成 20 年度後期研究会 2009 年 2 月・椋山女学園大学
草信 和世	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園実習ガイドブッケー実習の中で磨かれる“技と心”」(共著) 新読書社・2009 年 1 月・執筆部分：pp.58-61 ・「児童文化がひらく豊かな保育実践」(共著) 保育出版社・2009 年 2 月・執筆部分：pp.68-73, pp.150-151 <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代における保育者の専門性に関する一考察」(単著) 明星大学通信大学院研究紀要教育学研究第 8 号・pp.31-40・2008 年 8 月 ・「現代における保育者の専門性に関する一考察 (2)」(単著) 埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号 pp.59-65・2009 年 3 月 ・「現代における保育者の専門性に関する一考察 (3)」(単著) 埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号 pp.67-71・2009 年 3 月

	<p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<生活者>としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開 (1)」(共同) 日本教育方法学会第 44 回大会・2008 年 10 月・愛知教育大学 ・「<生活者>としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開 (2)」(共同) 日本教育方法学会第 44 回大会・2008 年 10 月・愛知教育大学
高木 香織	<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魔女の造形についての一考察 ―呼称から読み解く「マクベス」の魔女―」 人文科教育研究 NO35・人文科教育学会・pp.43-54・2008 年 8 月
褒 珉卿	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「韓国のわらべ歌を基にした音楽づくり」『“音楽づくり”ワークショップを楽しむために II』 (共著) マザーアース・2008 年 8 月・執筆部分：pp.5-6 (入選：指導案) <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本における幼児の創造的な音楽活動」(単著：査読) 韓国幼児教育学会 2008 年度定期学術大会論文集・pp. 533-543・2009 年 3 月 ・「応答性の音楽を楽しむ」(共著) 日韓音楽教育学会共同セミナー報告書・pp.55-59・2008 年 6 月 ・「子ども集団が共同しつつ創造する音楽表現」特集『音楽表現における集団と個の関係を問 い直す』(単著) 音楽教育実践ジャーナル・2008 年 8 月・執筆部分：pp.40-49 (依頼論文) ・「幼児の主體的・創造的な音楽表現を支える音楽活動の可能性」(博士論文) 日本女子大学大学院人間生活学研究科・pp.1-182・2009 年 3 月 <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本における幼児の創造的な音楽活動」 韓国幼児教育学会 2008 年度定期学術大会・2009 年 3 月・韓国チョジュ教育大学 ・「応答性の音楽を楽しむ」(共同) 日韓音楽教育学会共同セミナー・2008 年 6 月・日本女子大学

② 乳幼児保育学科第二部

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
小澤 和恵	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」(共著) 保育出版社・pp.189-189・2009 年 3 月 <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察―「生活の歌」と「季節の歌」について―」(単著) 埼玉純真短期大学研究論文集第 2 号・pp.37-47・2009 年 3 月 <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オペレッタ上演を通して育まれる表現力と人間性」 全国大学音楽教育学会第 24 回全国大会・2008 年 8 月・メルパルク横浜

(3) 専任教員の所属学会

① こども学科

○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
藤田 利久	National Business Education Association・日本環境教育学会・日本秘書教育学会・日本キャリアデザイン学会
青木 万理	日本心理臨床学会、日本学生相談学会、日本森田療法学会
安部 孝	日本教育評価研究会、日本保育学会、日本教育方法学会、日本教育学会、日本教師教育学会、日本道徳教育学会、身延山大学仏教学会
井筒 紫乃	日本体育学会・ランニング学会・幼児体育学会・こども環境学会・日本発育発達学会
入江 良英	日本特殊教育学会・アメリカ教育学会・日本社会学史学会・早稲田社会学会 日本社会病理学会・日本発達障害学会・日本教育社会学会
牛込 彰彦	日本神経科学学会・日本生理学会・日本薬学会・日本赤ちゃん学会
浦 由希子	日本 LD 学会・日本コミュニケーション障害学会・National Student Speech Language Hearing Association 会員・日本特殊教育学会
木許 隆	全国大学音楽教育学会・日本音楽表現学会・日本管打吹奏楽学会
草信 和世	日本保育学会・日本教育方法学会
高木 香織	日本国語教育学会・人文科教育学会・筑波大学国語国文学会
斐 珉卿	日本保育学会・日本子ども社会学会・日本関東教育学会・日本音楽教育学会・韓国幼児教育学会
本多 創史	日本社会福祉学会・社会事業史学会・障害学会

② 乳幼児保育学科第二部

○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
小澤 和恵	全国大学音楽教育学会・日本音楽療法学会、日本ダルクローズ音楽教育学会

2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は、学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することもその職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

(1) 講師・助言者等の実施状況

① こども学科

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
藤田 利久	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師 ・川口市 市民パートナーステーション プレゼンテーション講習会講師 ・「川口市防災ネット2周年記念研修会」パネル座談会 パネリスト
入江 良英	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省委託「社会人の学び直しプログラムー軽度発達障害のケア」担当 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師
牛込 彰彦	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・教職員免許更新予備講習講師 ・埼玉純真短期大学夏季公開講座講師
井筒 紫乃	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・教職員免許更新予備講習講師 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師 ・日本体育協会小学生指導者育成研修会講師（陸上競技） ・日本陸上競技連盟ランニングクリニック講師 ・全国小学生陸上競技指導者中央研修会講師 ・羽生市ランニング教室講師 ・スポーツリーダー養成講習会講師 ・埼玉県立鷲宮高等学校「乳幼児の運動発達」模擬授業講師 ・日本陸上競技連盟ランニングクリニック 講師（大阪長居陸上競技場） ・「女性のためのランニング講座」講師 ・「子どものからだと健康」講師 ・「レクリエーションの楽しみ方」講師
安部 孝	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・教職員免許更新予備講習講師 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師
草信 和世	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師
青木 万里	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師 ・埼玉県立幸手高等学校模擬授業講師
浦 由希子	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師 ・古河第2高等学校特別支援教育研修会講師

	<ul style="list-style-type: none"> ・館林市立第3小学校言語部会研修会講師 ・羽生市立第2小学校特別支援教育のための職員研修会講師 ・行田養護学校教育研修会講師
木許 隆	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員免許更新予備講習講師 ・吹奏楽講習会講師 ・埼玉県立誠和福祉高等学校出張授業講師 ・愛知県立岡崎商業高等学校公開授業講師 ・文化庁文化部芸術文化課地域文化振興室後援 学校への芸術家等派遣事業講師 ・埼玉県羽生市立新郷第一小学校出張授業講師 ・マーチング講習会講師 ・アンサンブル講習会講師 ・器楽講習会講師
斐 珉卿	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師 ・日本保育学会第61回大会 ・日本現代音楽協会ワークショップ講師 ・日韓幼児音楽研究会 ・「幼児の創造的な音楽学習」ワークショップ講師
本多 創史	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・埼玉県立騎西養護学校講演会講師
高木 香織	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師 ・館林市教科道德等研究会「言語部会」講師 ・茨城県立古河第二高等学校道德ゲストティーチャーによる授業講師

② 乳幼児保育学科第二部

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
小澤 和恵	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム講師 ・埼玉純真短期大学夏期公開講座講師

(2) 専任教員の諸団体への所属状況

① こども学科

○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	所属団体
藤田 利久	羽生市子育て協議会
牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・羽生市図書館協議会・羽生市効率保育所のあり方検討委員会 会長
井筒 紫乃	日本陸上競技連盟普及委員会委員・日本陸上競技連盟法制委員・日本陸上競技連盟女性委員・ 社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員・埼玉県立誠和福祉高校評議員
木許 隆	東京リコーダー協会・新日本製鐵(株)名古屋製鐵所吹奏楽団音楽監督
草信 和世	児童文化研究誌舞々同人・保育研究グループはるにれ会員・羽生市社会教育委員
青木 万里	東京臨床心理士会会員・関東地区学生相談研究会会員

② 乳幼児保育学科第二部

○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	活動
小澤 和恵	羽生市女性会議会長(羽生市より委嘱)

(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

① こども学科

○ 学外兼務状況一覧

氏名	所属団体
青木 万里	國學院大學法学部兼任講師
木許 隆	岡崎女子短期大学幼児教育学科兼任講師

② 乳幼児保育学科第二部

平成20年度における乳幼児保育学科第二部専任教員の非常勤講師等の兼務は無い。

(3) 成果と課題(点検・評価)

短期大学の教員は、教育はもとより研究も深め、教育に還元することが求められている。教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門の分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでいるといえる。研究環境に関して昨年度と比較した場合、個人研究費の増額や個人研究室の整備等を行い改善を図った。

Ⅶ 図書館

1 図書館の基本方針

本学は、設立趣旨にあるように、埼玉県北部で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることを目指すものである。図書館もそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

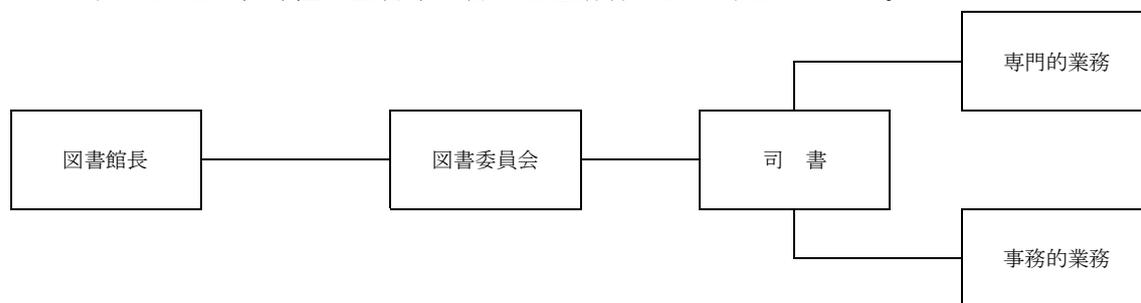
図書館では、開学以来、本学の学科構成に合わせて、英語学関連と保育・児童教育・心理学関連の資料（絵本、紙芝居などを含む）に重点を置いた蒐集、学生・教職員からのリクエストに応えた図書購入を行い、蔵書の充実を図ってきた。今年度からは、こども学科および乳幼児保育学科第二部の学科構成に改編したことにより、関連する分野に特化して図書の購入を執行した。

2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や各学科の教育方針に即応したものにしていくため、館長をはじめ選出された委員で構成される「図書委員会」を組織し、図書館の運営、文献の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書 2 名（専任 1 名、非常勤 1 名）があたっている。本学図書館の場合、この 2 名の図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに一般的な事務的業務を行っている。

また、火曜日と木曜日は、乳幼児保育学科第二部の学生のために開館時間の延長（17:30～19:10）を実施し、専任の図書館司書の超過勤務により対応している。



図書館の業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を、従来の手工業的な方法で行

わざるを得ない状況である。ただし、蔵書検索システムについては、今年度から導入し、運用を開始した。

3 施設・設備及び情報サービス

(1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 153.2 平方メートル、二階は 113.0 平方メートルである。一階は書架、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数は 45,050 冊（平成 21 年 3 月 31 日現在）で、その内訳は、和書が 40,257 冊、外国書が 4,793 冊である。なお、ほとんどの外国書は、101 教室の一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 40 席（閲覧机 8 台）を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、雑誌、視聴覚資料を排架して利用に供している。

在籍学生数は 263 名（平成 20 年 10 月現在）である。学生一人あたりの蔵書数は 171 冊、年間受入冊数は 1.5 冊である。この数値を（社）日本図書館協会が毎年調査し刊行している「日本の図書館」（2008 年版）に掲載されている平均値と比較すると、全国の大学図書館の蔵書数では 171 : 84、短期大学図書館に限っても 171 : 110 となり、いずれも本学の図書館がやや上回っている。

(2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生及び教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査で来館した学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC（Nippon Decimal Classification＝日本十進分類法）を判定して当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探し当てたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、書名目録・著者名目録等のカード目録での調査を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室に持参して利用してもらう。

① 参考文献・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館事務室またはカウンタに排架している参考図書を使用して回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新規購入図書の価格、出版社等の情報である。

② 館外貸出及びコピーサービス

学生への館外貸出の冊数と期限は、5冊、2週間にして、教育実習などで必要な場合には返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。教職員への期限は1ヵ月としている。コピーサービスについては、著作権法第31条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

③ 視聴覚資料

図書館サービスの情報源は、主に図書や雑誌であるが、ビデオテープ、DVD、CD-ROMなどの視聴覚資料の蒐集が必要不可欠でもある。特に児童教育、英語教育に必要な資料を購入して利用に供している。また、図書館情報学分野の資料も購入して、司書・司書教諭コースの授業の補助手段として利用している。

二階閲覧室には、DVD・CD/ビデオ一体型の再生装置と液晶13型ディスプレイを設置し、館内でのCD、DVD、ビデオテープの視聴が可能な状態としている。

④ 情報検索システムの利用

今年度より、コンピュータで蔵書を検索できるシステム（Simple-OPAC：OPAC社）を導入し、利用者サービスの向上を図ることができた。

今後は、学内LAN（校内情報通信網）を構築し、国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）を導入して、共同分担目録システムや図書館間相互利用システムを利用することで、本学図書館の基幹業務のコンピュータ化を実施することが必要である。この学術情報システムは、国内の高等教育機関における図書館の導入増加の傾向をみると、将来の課題であると思われる。

また、共同分担目録システムを導入できれば、書誌レコードの流用ができ、作業を省力化できるメリットもある。

4 所蔵点数と年間受入状況

(1) 所蔵点数

① 蔵書数

蔵書の数は先述したように、平成 21 年 3 月 31 日現在で、45,050 冊である。そのうち和書は 40,257 冊、外国書は 4,793 冊である。

② 学術雑誌所蔵数

所蔵している学術雑誌のタイトル数（平成 20 年度）は次のとおりである。なお、一般雑誌は除く。

○ 学術雑誌タイトル数

和雑誌：67 点	外国雑誌：14 点
----------	-----------

③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成 20 年度）は次のとおりである。

○ 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料（うち電子資料）：27 点

④ 除籍数

平成 20 年度は、蔵書の除籍を実施していない。

(2) 年間受入状況

平成 20 年度の資料別受入状況は、図書 371 冊、視聴覚資料 27 点で、合計 398 件である。

○ 受入状況の内訳（平成 20 年度）

受入種別	冊数・点数	
図書	合計 371 冊	
	和書	371 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 27 点	
	ビデオテープ	1 点
	DVD	26 点
	CD	0 点
	CD-ROM	2 点
	カセットテープ	0 点

5 利用状況

(1) 入館者数

平成 20 年度の年間入館者数は 5,518 人、1 日平均入館者数は 23.4 人（年間入館者数／開館日数）である。学生 1 人当たりの年間入館回数は約 21 回（年間入館者数／学生数）である。学生所属別の入館回数と 1 人当たりの平均利用回数は次のとおりである。

○ 学生所属別入館回数（1 人当たりの平均利用回数）（単位：回）

	こども学科	乳幼児保育学科第二部
1 年	1,819 (20.7)	—
2 年	3,453 (22.6)	67 (9.6)
3 年	—	156 (10.4)

平成 20 年度の教職員の入館者数は、969 人である。

(2) 館外貸出

館外貸出については、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の間、学生は 1 人 5 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 5 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏季休業等の長期休暇および教育実習、保育実習の場合は特別に長期貸出を認めてい

る。

○ 学生所属別貸出冊数（1人当たりの平均貸出冊数）（単位：冊）

	こども学科	乳幼児保育学科第二部
1年	933 (10.6)	—
2年	3,303 (21.6)	48 (6.9)
3年	—	189 (12.6)

平成20年度の教職員の館外貸出は、587冊である。

（3）その他の業務

①□ 参考業務

平成20年度のレファレンス受付数は、207件である。

② 現物貸借

平成20年度の相互貸借はない。

③ 文献複写

文献複写の依頼件数（本学図書館から他の図書館への複写依頼）、文献複写の受付件数（他の図書館から本学図書館蔵書の複写依頼の受付）は、次のとおりである。

○ 文献複写の受付・依頼件数

受付	依頼
6件	38件

注)

・図書館に設置しているコピー機は、著作権法第31条による図書館資料の複製のため、館内資料に限定して、文献複写のためのみに運用している。

6 研究紀要

埼玉純真短期大学研究論文集 第1号

研究紀要は、本学の校名変更に伴う誌名変更の際に、従来刊行してきた「研究紀要」を第23号で廃刊にし、論文の本文を電子化してインターネットにより一般公開させることを目的に、新たに「研究論文集」として立ち上げ、サイズをB4版からA4版に変更し、平成20年3月に埼玉純真短期大学研究論文集第1号を刊行した。電子化した論文は、国立情報学研究所が提供する論文情報ナビゲータ(CiNii:サイニィ <http://ci.nii.ac.jp/>)で閲覧できる。なお、冊子体の発行部数は250部である。

7 成果と課題（点検・評価）

今年度は、こども学科及び乳幼児保育学科第二部の二学科体制への再編があり、図書資料の購入もこども学や乳幼児保育の分野に特化した予算の執行を行った。それにより、関連する資料の充実が図られた。また、今年度から導入したコンピュータによる蔵書検索システム（Simple-OPAC）は、利用者の利便性の向上に繋がった。ただし、全ての蔵書資料がデータベース化されているわけではなく、遡及入力が今後の課題である。更に、学内のみならず、学外機関との総合的な学術情報システムの構築が将来的に必要なである。

VIII 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積

(1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準（4,000 m²）の約 8.74 倍の広さを有する 34,969.5 m²、そこに校舎は 6,530.2 m²、運動場 8,058.98 m²、緑地 7,730.81 m²がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド（一周 300m）が設けられている。また、学生、および来客者用駐車場（96 台）、自転車置場が設置されている。研修棟の 1 階部分にある食堂の南側にはテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。校内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫があり、またクラブ活動のための部室がある。

校地総面積（大学専用校地）	34,969.50 m ²
校舎	6,530.20 m ²
運動場	8,058.98 m ²
緑地	7,730.81 m ²

(2) 成果と課題（点検・評価）

短期大学設置基準による必要面積は、収容定員より算出すると校舎が 3,350 m²であり、校地が 4,000 m²である。本学の校地、および校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して 1.63 倍、校地は 7.74 倍の面積を有し、校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、余裕のある校地を有している点が特徴的である。基準値よりも広い校地の活用について地方の大学ということで、一部を学生が余裕をもって使用できるよう学生専用駐車場としての拡張をはかった。以前よりも、多くの学生が利用できるようになった。

大学周辺は、徐々に開発の動きが見られてきた。ただ、開発の動きにはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時間が止まったような安らぎを得ることが出来る。そういった意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・

研究に取り組むことの出来る、優れた教育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の 20%を占める現状からも、情操環境としては貴重かつ最適であると自負できる。これらの状況を活用し、調和のとれた設計を進めていく必要があるだろう。

2 施設及び設備

(1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟には事務室・学長室・応接室・会議室・保健室・非常勤講師室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1・2階部分は図書館、3階・4階は教員研究室、5階は役員室となっている。低層階の多い本学の校舎にあって唯一 5階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2階建ての学習棟は、普通教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室(20室)、実習指導室、学生相談室、パソコン開放室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口にはラウンジが設けられ、連絡事項伝達のための掲示板と自販機が設置されている。

学習棟の東側に位置する3階建ての研修棟は、1階部分が学生食堂、売店、絵画工作室、理科・社会実験室、陶芸室、2階部分が普通教室、中講義室、3階部分が普通教室、パソコン教室、和室がそれぞれ設置されている。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,458.77 ㎡
研修棟	3	1,772.66 ㎡
研究棟	5	766.29 ㎡
管理棟	1	641.49 ㎡
体育館	1	933.70 ㎡

校舎延床面積合計	6,572.91 ㎡
----------	------------

(2) 保守・管理体制

平成 20 年度に実施した保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消化器、自働火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物(地下タンク)、電話交換機、ピアノ調律等

(3) 成果と課題(点検・評価)

1・2階低層階の棟がほとんどを占めるが、校地面積が広いこともあって、校舎面積も短期大学設置基準(3,350㎡)をクリアしている。今年度は「英語コミュニケーション学科」の募集停止に伴い、同学科専用教室、LL教室の改装を行いパソコン教室とした。また、多目的室やプレイルームなど設置など環境改善と設備充実を図らねばならない。

施設設備の保守・管理体制については、学生の身体の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に適った業者により滞り無く点検を実施しているところであるが、設備の老朽化などによって安全が損なわれぬよう日常の強化を含め、今後ともより安全性の確保できる体制と方策を追求していく姿勢が求められよう。校舎内の不審者への対応としては、昨年より用務職員2名を採用したことにより、不審者への対応及び校舎の美化、屋内清掃、芝生除草など環境整備は整った。

また、より合理的で迅速に機能する安全管理の体制が敷かれるよう消防署、警察署など関連機関との連携をはかり、協力を仰ぎながら、さらなる学生の安全確保に果敢に取り組んでいく必要がある。

3 校内見取図

Ⅸ 教授会・学科会・委員会等

1 教授会

(1) 教授会

① 開催日程及び主な審議事項

○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
臨時教授会 平成 20 年 4 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生の承認・成績追加認定 ・在学生の平成 19 年度後期 GPA 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断、クラス集会の予定と教職員役割分担・平成 20 年度前期時間割 ・平成 20 年度年間予定表
臨時教授会 4 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者のコース変更・撮影許可願（案） 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合演習・入学辞退者 ・平成 19 年度自己点検評価報告書
第 1 回定例教授会 4 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保育学科第二部入学定員数と収容定員数の変更 ・こども学コースより乳幼児保育コースへ転コース希望者の取扱い ・成績通知書間違い訂正・司書科目成績追加認定 ・スポーツ大会科目充当科目・欠席届の変更 ・科目等履修生修得希望科目 ・他学科科目履修希望願・既修得単位の科目認定 ・平成 21 年度入試日程（案） ・平成 20 年度オープンキャンパス開催日（案） ・平成 21 年度一般推薦入試の出願条件見直し ・夏季公開講座（案）・実習審査結果の承認 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告 ・学び直しプログラム、平成 19 年度の報告及び平成 20 年度の実施計画
臨時教授会 5 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保育学科第二部学生に関すること ・自己点検評価の分担担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試委員会からの報告
第 2 回定例教授会 5 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・5 月 9 日（金）スポーツ大会における 2 年 E 組の振替科目・学内自動車事故 ・オープンキャンパス実施内容 ・推薦入学試験指定校一覧（案）・進学ガイダンス ・平成 20 年度保育実習審査・「夏季研修」の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
臨時教授会 5 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・「図画工作」「こども学」の担当教員 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会からの報告

<p>第3回定例教授会 6月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合演習の純真祭参加について（案） ・後期時間割・前期試験実施計画・表現発表会 ・授業評価アンケート・補講・喫煙・学生会費 ・駐車場・図書館購入希望資料の選書 ・第1回オープンキャンパス実施要領（案） ・夏季公開講座プログラム（案） ・平成20年度介護等体験実習審査・施設実習審査 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告 ・平成20年度予備講習開設申請
<p>第4回定例教授会 平成20年7月18日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後期時間割・前期試験時間割、試験監督 ・試験での留意点（学生向け）、試験監督の留意点（教員向け）・総合演習の教室変更 ・成績認定（平成19年度後期） ・学外授業許可願（案）・喫煙 ・教職員の学内駐車場・卒業パーティー ・ロッカー、下駄箱の上の荷物廃棄 ・埼玉純真短期大学研究論文集規程 ・第2回・第3回オープンキャンパス、AO予備面談実施要領（案）・夏季公開講座実施要領（案） ・授業評価アンケート ・平成20年度前期試験受験無資格者の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>臨時教授会 平成20年8月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後期時間割・AO予備面談の結果 ・「介護等体験」を行う学生の実習資格審査 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第5回定例教授会 平成20年9月19日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成19年度の履修指導により不利益を被った学生への新たな指導・後期時間割の変更点 ・後期司書、司書教諭科目集中講義日程 ・教員免許説明会・実習期間中の休講アンケート ・学生の履修計画・前期分学費未払い学生 ・単位修得見込証明書の書式・校門の開閉 ・AO予備面談について ・第4回オープンキャンパス実施要領（案） ・平成21年度AO入学試験実施要領（案） ・平成20年度介護等体験実習（養護学校）、小学校教育、幼稚園後半実習審査 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第6回定例教授会 平成20年10月17日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度の学事予定・学籍異動 ・年間行事予定表の訂正・後期時間割の変更点 ・他大学で修得した単位の読み換え ・後期司書、司書教諭科目集中講義日程 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告

	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭で授業発表する科目 ・通常と異なる履修登録 ・保育士登録説明会実施 ・平成 21 年度カリキュラム検討 ・平成 21 年度 AO 入試合否判定 ・平成 21 年度指定校推薦、推薦（I 期）入試実施要領（案）・平成 21 年度学校案内の作成 ・個人情報の利用目的に関する同意書 ・平成 20 年度施設、介護等体験実習審査 	
臨時教授会 平成 20 年 11 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度指定校推薦、推薦（I 期）入学試験合否判定・平成 20 年度前期成績認定 ・卒業認定 	・入試委員会からの報告
第 7 回定例教授会 平成 20 年 11 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績認定・通常と異なる授業時間での履修 ・欠席の多い学生数調べ・後期試験計画 ・後期試験実施方法、受講人数調査 ・レポート課題・授業評価アンケート ・年間予定表・カリキュラム編成 ・科目等履修生の基準・司書課程の集中講義日程 ・保育士養成課程修了見込証明書、保育士養成課程修了証明書・総合演習学習発表会 ・平成 21 年度一般推薦、専門・総合学科等推薦（II 期）入学試験、社会人（I 期）入学試験実施要領（案） ・プレカレッジ実施時間割（案） ・社会人入学試験、一般入学試験問題作成委員会 ・平成 22 年度学校案内作成 ・「社会人の学び直し」評価委員会の設置 	各委員会からの報告
臨時教授会 平成 20 年 12 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度専門、総合学科（II 期）推薦入試、社会人（I 期）入試合否判定 	
第 8 回定例教授会 平成 20 年 12 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度年間行事予定表、カリキュラム検討、専任教員出校予定アンケートの実施 ・学籍異動・成績追加認定・総合演習の発表 ・卒業証書（学位記）、ホルダー ・平成 21 年度「社会人の学び直し」事業計画（案） 	・各委員会からの報告
第 9 回定例教授会 平成 21 年 1 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・後期試験時間割、試験監督上の留意点、試験での留意点 ・保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰者推薦 ・社団法人全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰者推薦 	・各委員会からの報告

	<ul style="list-style-type: none"> ・成績追加認定・科目等履修生募集要項 ・総合演習の発表方法に関するアンケート、出席票 ・平成 21 年度カリキュラム検討 ・平成 21 年度一般（Ⅰ期）入学試験実施要領（案） ・平成 20 年度こども学コース幼稚園前半実習審査 	
臨時教授会 平成 21 年 1 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度一般（Ⅰ期）入学試験合否判定 	
臨時教授会 平成 21 年 2 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション実施（案） ・平成 21 年度の時間割・卒業式 	
第 10 回定例教授会 平成 21 年 2 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績追加認定・平成 21 年度年間行事予定表 ・平成 21 年度時間割 ・平成 21 年度科目等履修生希望者の状況 ・総合演習Ⅰ、Ⅱ概要 ・一般、社会人（Ⅱ期）入学試験実施要領（案） ・第Ⅲ期 AO 入試予備面談者（案） ・平成 22 年度入学試験日程（案） ・春のオープンキャンパス実施 ・リーフレット作成・卒業記念品 ・平成 20 年度後期 追再試験の個別対応 	各委員会からの報告
臨時教授会 平成 21 年 2 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年度後期成績認定（卒業年次生／科目等履修生） ・平成 20 年度卒業認定及び学位取得認定 ・平成 20 年度免許、資格取得認定 ・科目等履修生審査通知書 ・平成 21 年度学生便覧の作成・学位記等授与者 ・表彰状授与者・学長賞授与者・卒業生答辞 ・図書館資料除籍に関する内規の改正案 ・平成 21 年度入学生宣誓の候補者 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度一般（Ⅱ期）入学試験実施要領
臨時教授会 平成 21 年 2 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度一般（Ⅱ期）入学試験合否判定 	
第 11 回定例教授会 平成 21 年 3 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績追加認定・学籍異動 ・平成 21 年度オリエンテーション日程表（案） ・平成 21 年度年間行事予定表（案） ・平成 21 年度時間割（案） ・平成 21 年度科目一覧（案） ・学則改正案・教務関連の規程案 ・平成 21 年度科目等履修生審査要領 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告

	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに載せる科目の範囲・在学生の動向 ・学生関連の規程案・図書館関連の規程、内規案 ・平成 22 年度入試日程（案）・入試関連の規程案 ・オープンキャンパス実施要領（案） ・第 25 回卒業式進行及び役割分担（案） 	
臨時教授会 平成 21 年 3 月 23 日	・平成 21 年度 AO 入試合否判定	
臨時教授会 平成 21 年 3 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度科目等履修生の審査 ・成績認定・クラス分け 	・平成 21 年度科目一覧
臨時教授会 平成 21 年 3 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度科目一覧 ・平成 21 年度通常外での履修が予想される学生について・オリエンテーション配布資料 	・教科書一覧表

② 成果と課題（点検・評価）

教授会は、「学則第 8 条第 2 項」に則り、教授・准教授・専任講師・助教で構成した。これは、本学の専任教員が 12 名であることと、教授が 3 名のみであることが理由である。

教授会での議案審議や報告は、各委員会からの提案に基づいて行われたが、とかく報告会的になりがちな教授会に、全員が参画意識と当事者意識を持って運営していくべく、それぞれに意見や感想を述べ合うように働きかけた。今年度より旧教員と入れ替わり新任教員が 5 名参加した結果、時折、感情的な意見や感想も見られたが、全体的に活性化され意思疎通が図れたと思われる。これらのことから教授会運営は、概ね順調に推移したといえる。

今後の課題として、委員会からの議題が現状に対する対処・対応策になりがちであるので、過去の実績に囚われない新企画や提案、授業の在り方や指導などの授業の質の向上、地域貢献など、本学の未来を見据えての建設的議題を討論の場に上げていかなければならないと考える。

（2） 人事

① 採用

氏名	職種	採用日
木許 隆	こども学科准教授	平成 20 年 4 月 1 日
青木 万里	こども学科講師	平成 20 年 4 月 1 日
斐 珉卿	こども学科講師	平成 20 年 4 月 1 日
本多 創史	こども学科助教	平成 20 年 4 月 1 日
浦 由希子	こども学科助教	平成 20 年 4 月 1 日

② 退職

氏名	職種	退職日
本多 創史	こども学科助教	平成 21 年 3 月 31 日

③ 昇任・昇格

氏名	職位	退職日
小澤 和恵	こども学科准教授	平成 20 年 4 月 1 日
草信 和世	こども学科講師	平成 20 年 4 月 1 日
井筒 紫乃	こども学科准教授	平成 20 年 10 月 1 日

④ 異動

平成 20 年度において、転任・配置転換などの人事は行われなかった。

(3) 成果と課題 (点検・評価)

平成 18 年後半から学園改革の一環として人事改革の余波を受け、平成 19 年度末までに、平成 19 年度在籍者からさらに教員 5 名と事務職員 8 名（この内 5 名が平成 19 年度内採用者）が退職し、平成 20 年度を迎えるに当たって、2 年以上継続勤務の教職員はそれぞれ 1 名ずつという状況にまでなった。

平成 19 年度の退職者の退職理由も、常識では測れない措置に対する先行き不安が主であった。この反省に基づき平成 20 年度は、教職員が安心して個々の力を発揮できるような職場環境を作るように努めた。まず、前年度降格の教員の職位復帰（昇格）を行った。ついで、就労について妥当な根拠に基づいて行われる規程の整備を本部に働きかけ、この作業が開始されたことなどで、平成 20 年度の人事は落ち着いたものとなった。

特に、新任教員の新しい風が本学の方向をより積極的で外向的な環境を作り、地域社会へ各種委員や講習会講師などとして参加していったことは、地域貢献を使命のひとつに掲げる本学本来の姿を取り戻した感がある。このような中で、新規事業への取り組みも図れたことは評価に値する。今後、この新任教員が、現在の謙虚でかつ積極的な気持ちをどれだけ長く維持できるかが、本学の将来に関わるものと思われる。

2 委員会

(1) 教務委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
小澤 和恵	藤田 利久（学長） ・ 入江 良英 ・ 牛込 彰彦 ・ 井筒 紫乃 ・ 安部 孝 草信 和世 ・ ※八木原理恵（4月まで） ・ 橋本早也佳 ・ 相馬 萌（6月より）

② 概要

開催日	内 容
平成 20 年 4 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ こども学コースより乳幼児保育コースへ転コース希望・他学科科目履修希望願 ・ スポーツ大会科目充当科目・欠席届の変更 ・ 乳幼児保育学科第二部入学定員数と収容定員数の変更 ・ 司書科目成績追加認定・成績通知書間違い訂正・科目等履修生取得希望科目 ・ 既修得単位の科目認定
5 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司書科目集中講義・平成 20 年度前期試験の実施（アンケート調査）
6 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 純真祭における総合演習のコマ数換算・授業評価アンケート・前期試験実施計画 ・ 第三者評価の分担・後期時間割・児童相談所の先生による幼児虐待に関する招聘授業 ・ 平成 20 年度後期非常勤講師委嘱・補講（1日のコマ数）
7 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケート・前期試験受験無資格者の調査
7 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期時間割・前期試験時間割・試験監督・試験での留意点（学生向け） ・ 試験監督の注意点（教員向け）・総合演習の教室変更・成績認定（平成 19 年度後期）
7 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の動向・平成 19 年度年次報告書の分担
9 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学籍移動・平成 19 年度履修指導により不利益を被った学生への新たな指導 ・ 後期時間割の変更点・後期司書・司書教諭科目集中講義日程・教員免許説明会 ・ 実習期間中の休講アンケート・学生の履修計画・前期分学費未払い学生
10 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 21 年度予定・学籍移動・平成 20 年度年間行事予定表の訂正 ・ 平成 20 年度後期時間割の変更点・他大学で修得した単位の読み換え ・ 後期司書・司書教諭科目集中講義日程・学園祭で授業発表する科目 ・ 通常と異なる履修登録・保育士登録説明会実施・平成 21 年度カリキュラム検討
11 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績認定・卒業判定
11 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績認定（追加）・通常と異なる授業時間での履修・欠席の多い学生数調べ ・ 後期試験計画・後期試験実施方法・受講人数調査・レポート課題・授業評価アンケート ・ 平成 19 年度自己点検・評価報告書（学事日程）・年間予定表・カリキュラム

	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師への来年度への依頼・科目等履修生の基準・司書の集中講義日程 ・保育士養成課程修了見込証明書・保育士養成課程修了証明書・総合演習学習発表会
12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度年間行事予定表・平成21年度カリキュラム検討・学籍異動 ・成績追加認定（通年科目の途中報告もあり）・平成20年度後期試験受験無資格者調査 ・総合演習の発表・卒業証書（学位記）ホルダー
平成21年1月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・後期試験時間割・施設実習が試験もしくは補講期間にかかる学生の一覧とその対応 ・保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰者推薦 ・社団法人全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰者推薦・成績追加認定 ・科目等履修生募集要項（案）・総合演習の発表方法に関するアンケート ・平成21年度カリキュラム検討
2月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績追加認定・平成21年度年間行事予定表・平成21年度時間割
2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度後期成績認定（卒業年次生/科目等履修生） ・平成20年度卒業認定及び学位取得認定・平成20年度免許・資格取得認定 ・平成20年度卒業式各代表者候補の選出（案）・科目等履修生審査通知書 ・平成21年度学生便覧の作成
3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績追加認定・学籍異動・平成21年度オリエンテーション日程表（案） ・年間行事予定表（案）・時間割（案）・科目一覧（案）・科目等履修生審査要領（案）
3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度学生便覧（案）・シラバスに載せる科目の範囲・追試験受験資格 ・学生の動向
3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生審査・成績認定（1年・二部2年）・平成21年度科目一覧 ・平成21年度クラス分け・平成21年度通常外での履修が予想される学生 ・オリエンテーション配布資料

③ 成果と課題（点検・評価）

平成19年度は実務におわれ、定期的な開催が出来ない状況にあったが、平成20年度は改善され、月1回の定例会議と必要に応じた臨時会議を開催し、十分な意見交換が行われた。その中で適切な審議がなされ、教授会に審議事項、報告事項として提出された。

(2) 学生委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
井筒 紫乃	木許 隆・草信 和世・青木 万里・斐 珉卿・本多 創史・※田中 淳一

② 概要

開催日	内容
平成 20 年 5 月 2 日	・平成 20 年度学生委員会教職員の役割分担・学内自動車乗り入れ ・学生専用アパートの防犯および巡回指導・スポーツ大会
5 月 14 日 (臨時委員会)	・学内駐車場における自動車接触事故
6 月 6 日	・第三者評価の役割分担・スポーツ大会の反省・喫煙の違反者・学生会費予算 ・学生専用アパート・学生会予算・学生の動向
7 月 4 日	・避難訓練実施・大学周辺の不審者・卒業行事関係・学食アンケート・学生の動向
9 月 2 日	・避難訓練実施・純真祭・卒業アルバムの表紙
10 月 3 日	・純真祭・リーダー研修・自動車駐車違反者・自転車の盗難・学生専用アパート巡回指導
11 月 7 日	・純真祭・埼玉県衛生研究所よりアンケート調査依頼・リーダー研修日程
12 月 5 日	・純真祭反省等・自宅外通学者懇親会・学生会長等の選挙 ・「薬物・インフルエンザ」対策の掲示
平成 21 年 2 月 6 日	・リーダー研修内容・学内自動車駐車違反者・学生専用アパート入居者数減少への対応
3 月 6 日	・来年度の新体制に伴う役割分担・平成 20 年度反省会

③ 成果と課題 (点検・評価)

通常、月 1 回の学生委員会を設け、学生の動向の把握や学校行事についての話し合いを行うことにより、学生全員がより良い学生生活を送れるようサポートを行っている。

本年度においても学生会執行部との繋がりを綿密にし、細やかな助言・指導をすることにより、本学の学生をうまくまとめることのできる執行部になったと考えられる。

本学は自動車通学を許可しているが、学内の駐車場や保険等についても適宜迅速に対応ができた。

本年度においても短大で斡旋しているアパートに何度か不審者が現れたため、羽生警察署とも連絡を取り合いながら、学生委員による巡回指導を毎月一回実施することにより、アパート入居学生の防犯指導や心のケアに努めた。

学生会執行部のメインイベントである学園祭は、本学の学生のみならず近隣の地域の方々も足を運んでいただき大盛況であった。今後も開かれた短大として、地域との繋がりを大切にしていきたい。

学生委員会の今後の課題としては、学生が安心して学生生活を送れるようにサポート体

制をさらに強化し、様々な犯罪が日常茶飯事に起きている今日、事故や事件に巻き込まれることのないよう、学生一人ひとりを守れるよう努力していきたい。

(3) 図書委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
牛込 彰彦	高木 香織 ・ 青木 万里 ・ 斐 珉卿 ・ 本多 創史 ・ 浦 由希子 ・ ※中村 周

② 会議概要

開催日	内 容
平成 20 年 4 月 27 日	・ 委員紹介及び今年度の予定・図書の選書
5 月 16 日	・ 図書の貸出冊数制限・研究論文集規程および投稿内規の検討・図書の選書
6 月 13 日	・ 蔵書検索システムの公開・図書の選書
7 月 8 日	・ 夏季休業期間中の開館日程・研究論文集規程および投稿内規の検討・図書の選書
9 月 26 日	・ ホームページ・図書の選書
10 月 10 日	・ 平成 21 年度購入雑誌の検討・図書の選書
11 月 14 日	・ 図書館に関する規程・図書の選書
12 月 12 日	・ 図書館に関する規程等についての確認・研究論文集 第 2 号・図書の選書
平成 21 年 1 月 9 日	・ 学生便覧に掲載する図書館ガイド・平成 21 年度予算・図書の選書
2 月 20 日	・ 学生便覧に掲載する図書館ガイド・図書館資料除籍に関する内規の改正
3 月 10 日	・ 図書館規程の新規制定

③ 成果と課題 (点検・評価)

図書館に係る規程等の検討を行い整備することができた。

- ・ 埼玉純真短期大学図書館規程
- ・ 埼玉純真短期大学研究論文集規程
- ・ 埼玉純真短期大学研究論文集投稿内規

学生便覧における図書館に関する掲載内容について、再検討を行うことができた。

従来、学生便覧には、「付属図書館利用規程」が掲載されていたが、利用方法等をわかりやすくするため、平成 21 年度からの学生便覧には、規程の内容も含めた「図書館の手引き」を掲載する予定である。

蔵書検索システムが導入され、学生等の蔵書検索における利便性を向上することができた。

(4) 就職委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
安部 孝	入江 良英・木許 隆・青木 万里・草信 和世・浦 由希子・高木 香織 ※奥貫慶一郎

② 会議概要

開催日	内 容
平成 20 年 4 月 5 日	・委員会の業務内容・就職等各領域の指導担当・就職ガイダンス
5 月 13 日	・就職ガイダンス・「ホーム・カミング・デイ」の計画
6 月 10 日	・「ホーム・カミング・デイ」の内容・求人への掲示・栃木県幼稚園連合会の就職説明会
7 月 8 日	・群馬県私立幼稚園協会等適性試験の学内相談・夏季休業中の就職相談及び指導体制 ・求人票発送準備・「ホーム・カミング・デイ」進捗状況・就職支援室の整備
9 月 9 日	・就職試験の推薦書・学生の就職活動・就職支援室の支援体制・求人票の管理 ・内定者の確認・就職に関する学内統一見解の作成
10 月 14 日	・人物調書の作成・推薦書の作成・就職先訪問・卒業生による職場紹介（人選）
11 月 11 日	・平成 20 年度卒業予定者に対するガイダンスの実施
12 月 2 日	・履歴書の作成
平成 21 年 1 月 13 日	・卒業生による職場紹介

(c) 成果と課題（点検・評価）

学習及び実習指導等での関係を活かしながら、個に応じた指導が良好に展開された。学生個々についての情報を委員間で更に共有し、指導の実を挙げるようにする必要がある。

(5) 入試委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
小澤 和恵	藤田 利久(学長)・入江 良英・牛込 彰彦・井筒 紫乃・安部 孝 草信 和世・※秋山 知世

② 会議概要

開催日	内 容
平成 20 年 4 月 11 日	・入試日程・オープンキャンパス日程・平成 21 年度入試一般推薦入試の条件見直し ・夏季公開講座について

5月2日	・指定校推薦基準値（案）・オープンキャンパス実施・学校案内、学生募集要項進捗状況
6月13日	・第1回オープンキャンパス実施要項（案）・公開講座（案）・指定推薦校の追加 ・電飾看板、通常看板の設置
7月11日	・第2回オープンキャンパス実施要領・夏季公開講座・第1回オープンキャンパス結果報告
10月11日	・平成21年度AO入学試験合否判定
11月11日	・平成21年度指定校推薦入学試験、推薦（Ⅰ期）入学試験合否判定・プレカレッジ実施
11月14日	・平成21年度一般推薦、専門・総合学科等推薦（Ⅱ期）入学試験、社会人（Ⅰ期）入学試験実施要項（案）・社会人入学試験問題、一般入学試験問題に作成委員会 ・プレカレッジ実施時間割（案）・平成22年度学校案内作成
12月6日	・専門・総合学科（Ⅱ期）推薦入試、社会人（Ⅰ期）入試合否判定 ・平成22年度入試用のためのWeb掲載・リーフレット作成
平成21年1月9日	・一般（Ⅰ期）入学試験実施要項（案）
1月31日	・一般（Ⅰ期）入学試験合否判定
2月16日	・一般・社会人（Ⅱ期）入学試験実施要項（案）・第Ⅲ期AO入試予備面談担当者（案） ・平成22年度試験日程（案）・春のオープンキャンパス（3/24・火）実施
2月28日	・一般（Ⅱ期）入学試験合否判定
3月10日	・平成22年度入試日程（案）・入試員委員会規程、その他に関する規定 ・パンフレット作成・オープンキャンパス（3月24日）実施要領（案）
3月23日	・AO（Ⅲ期）入学試験合否判定

③ 成果と課題（点検・評価）

学生募集から入試に関わる事項について、適切に委員会が開催され、話し合われた内容を教授会に提案することができた。平成20年度、夏休みに一週間の公開講座を行った。高校生の参加も数名あったが、さらに入試広報につながる展開ができるよう、検討が必要であるとする。

依然として入学者が募集定員を割っている状況があるので、今後さらに、教職員総力をあげて入試広報に取り組む必要がある。

(6) 実習委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
牛込 彰彦	高木 香織 ・ 入江 良英 ・ 木許 隆 ・ 安部 孝 ・ 斐 珉卿 ・ 本多 創史 浦 由希子 ・ 井筒 紫乃 ・ ※原田 智鶴

② 会議概要

開催日	内容
平成 20 年 4 月 22 日	・ 委員紹介・幼稚園前後半実習の資格事前審査
5 月 15 日	・ 保育園実習の資格事前審査
6 月 17 日	・ 介護等体験の資格事前審査・施設実習の資格事前審査
7 月 29 日	・ 介護等体験の資格事前審査
8 月 24 日	・ 小学校教育実習の資格事前審査・幼稚園後半実習の資格事前審査
9 月 5 日	・ 介護等体験の資格事前審査 (養護学校)
10 月 15 日	・ 施設実習の資格事前審査・介護等体験の資格事前審査
平成 21 年 1 月 14 日	・ 幼稚園前半実習の資格事前審査

③ 成果と課題 (点検・評価)

各実習とも事前指導等努力しており、実習先から高い評価を得ることができた。しかしながら、学生の実習に対する意識を高めるためには、以前にも増して強い指導が必要であった。事前指導において実習に対する意識をどこまで高めることができるかが今後の課題と考えられる。

保育所実習に関しては、本年度は、22 日間連続の実習となったが、カリキュラム上 22 日間連続の実施は、決して好ましいものとは言えない。今後の検討が必要である。

(7) FD委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
草信 和世	全専任教員・※佐藤 猛

② 会議概要

開催日	内容
平成 20 年 5 月 14 日	・ 自己点検・評価報告書 (第三者評価) のガイダンス
6 月 6 日	・ 自己点検・評価報告書 (第三者評価) 執筆分担のガイダンス

7月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価スケジュール・平成19年度自己点検 ・評価報告書（年次報告）作成のスケジュール・執筆分担 ・平成20年度自己点検・評価報告書（年次報告）作成のスケジュール
10月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度自己点検・評価報告書（年次報告）の原稿取りまとめと検討・規程 ・ALO対象説明会の報告
10月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講演会「本学教育への提言～保育の現場から」山村達夫氏
10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度自己点検・評価報告書（年次報告）に対する指摘事項の検討
平成21年1月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価報告書（第三者評価）の執筆分担・執筆に関する留意事項
2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価報告書（第三者評価）の原稿取りまとめと検討
3月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価報告書（第三者評価）に対する指摘事項の検討・参考資料 ・平成19年度自己点検・評価報告書（年次報告）の校正 ・平成20年度自己点検・評価報告書（年次報告）の執筆分担
3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度自己点検・評価報告書（年次報告）執筆に関する留意事項

③ 成果と課題（点検・評価）

平成20年度は、全学的な組織を構成し、平成19年度自己点検・評価報告書（年次報告）・平成20年度自己点検・評価報告書（年次報告）・自己点検・評価報告書（第三者評価）の作成を進めた。自己点検・評価報告書（年次報告）に関しては、毎年度作成する予定であり、次年度はより速やかな取組をする必要がある。

FD活動に関しては、「学生による授業評価アンケート」結果の各教員へのフィードバック・フィードバックに対する教員のコメント・コメントの学生への開示と外郭者による講演会が実現した。来年度は、他大学との連携を視野に入れたより活発なFD活動が求められる。

（8） 学び直し委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
入江 良英	全専任教員 ・ ※佐藤 猛 ※堤 尚子

② 会議概要

前年に引き続き、専任教員全員による「学び直しプログラム委員会」を、平成20年4月15日以降8回開催し、同プログラムの円滑な運動とカリキュラム内容の見直し、さらに次年度事業計画の立案等の事項について検討を重ねた。また、事務局として専任職員1名と派遣職員1名の2名体制とし、プログラムの進行管理と経費管理の徹底を期した。

○ 会議内容

期 日	内 容
平成 20 年 4 月 15 日	・平成 19 年度成果報告書・コンサルテーション、ブリーフセラピーの必要性 ・授業内容の準備状況
5 月 2 日	・平成 19 年度成果報告書・シンポジウムの質問対応・カリキュラムの変更
5 月 30 日	・夏季研修旅行・スケジュール外講座・講座実施状況報告
7 月 4 日	・夏季研修旅行・10 月度カリキュラム変更・平成 21 年度「学び直しプログラム」の取組み
10 月 17 日	・4～10 月前半の講座開講実績・10 月後半～3 月の講座開講予定・平成 21 年度の計画
12 月 19 日	・平成 21 年度事業計画（案）・第 1 回評価委員会・3 月 28 日の修了式
平成 21 年 1 月 30 日	・平成 21 年度事業計画（文部科学省提出）・平成 21 年度事業計画準備進捗状況 ・平成 21 年 1 月～3 月業務計画
3 月 24 日	・修了式・第 2 回評価委員会・平成 21 年度事業計画

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 20 年度、1 年間にわたり、「発達障害の幼児童のための」地域教員に対する講座を開講した。その結果、受講生からの評価は「満足」「まあまあ満足」の回答が 94%を超えた。また、5 名の外部有識者を含む評価委員会を発足させ、2 回の委員会を開催した。この席上、外部委員から事業内容について高く評価するとの発言があり、受講生による評価と合わせ、平成 20 年度の事業は一定以上の成果をあげられたものと考えられる。

これとは別に、「社会人の学び直し」講座受講生からの要請に応える形で、本学専任教員による「出前講座」が 9 ヶ所で実施され、地域の教職員や保護者の方々と、本学教員との交流が促進されるという成果もあげることができた。

反面、受講生の地域、職種による片寄りが目立ち、発達障害児支援の輪の広がりには欠ける点が指摘された。特に、中学校、高等学校からの参加が極端に少ないことと、地元羽生市をはじめとする近隣地域からの参加者数も少なかった。

これらの状況を踏まえて、平成 21 年度の講座内容について検討を進めた結果、これまで以上に地元に着した形での講座運営を行なうこととした。平成 21 年度は、地元羽生市、行田市、熊谷市の 3 市教育委員会と共催とし、さらに埼玉県教育委員会、埼玉県立総合教育センター、埼玉県立行田特別支援学校の後援を受け、中学校、高等学校教員を含む、より多くの地元の先生方に「発達障害」についての理解を深めて頂けるような講座開設を目指している。

(9) 編集委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
木許 隆	浦 由希子・本多 創史・※佐藤 猛

② 会議概要

本学における自己点検・評価報告書及び第三者評価に関わる書類の作成を中心に行った。FD 委員会とコミュニケーションをとりながら、より解りやすい書類作りを目指した。特に会議を開催するのではなく、委員で作業分担することが多くなった。

③ 成果と課題 (点検・評価)

平成 20 年度に着任した教員および事務職員での作業が多かったため、平成 19 年度以前の書類に目を通し、その内容を理解するのに時間を要した。しかし、本学がこれまで歩んだ歴史たるものを理解し、本学でしかできない教育を十分に理解でき、今後、本学の進むべき方向をも考えさせられるチャンスにも恵まれたように思われる。

X 事務組織

1 事務分掌

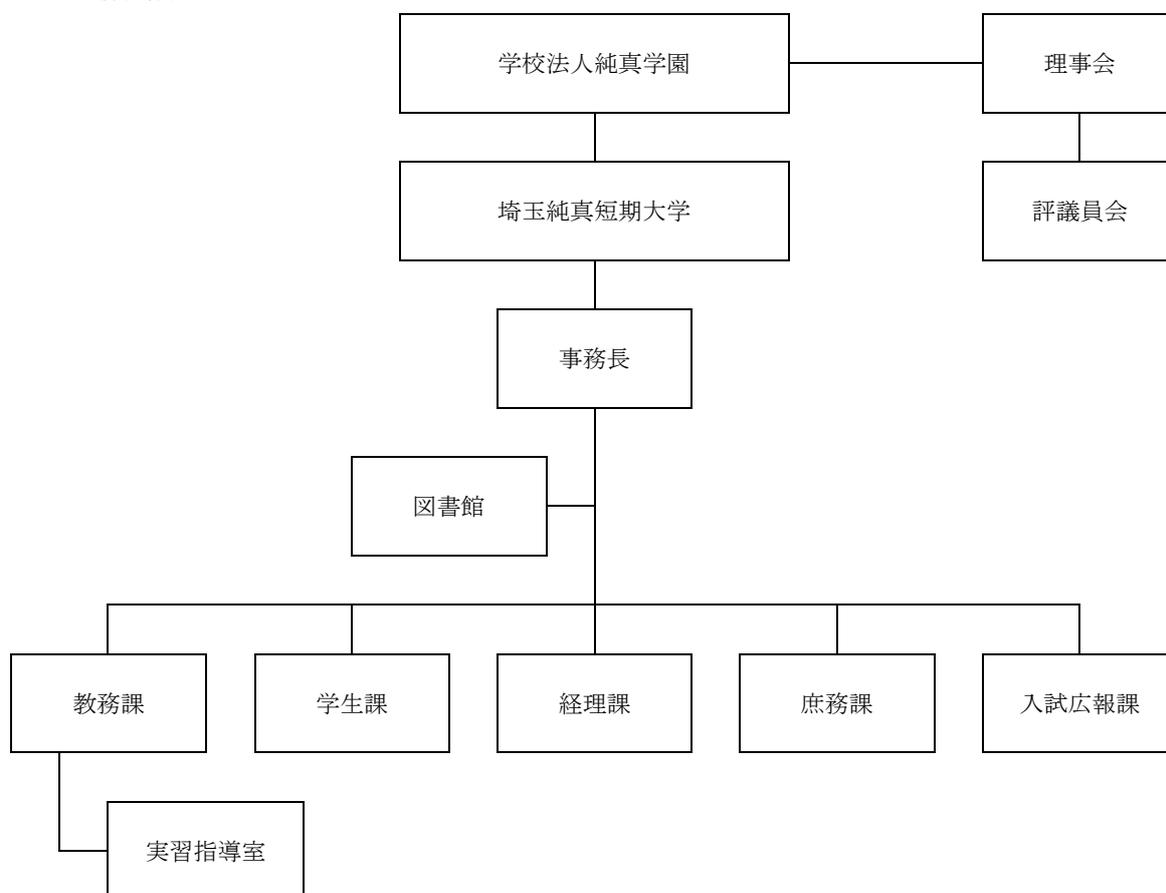
(1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多く、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティーを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営されている。

法人本部組織は、従来の法人事務局に加え、平成18年度より新たに理事長室・教育局を新設し、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務課・入試広報課・学生課・経理課・庶務課で構成されている。また、本学においては、図書館司書も事務組織に含まれ、さらに、教務課には学生の実習を支援する実習事務職員を配置している。

尚、管財関係の職務は経理課が、人事労務関係の職務は事務長直轄として、経理課・教務課・庶務課がサポートしている。

○ 事務組織図



(2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 14 名、非常勤職員 2 名合計 16 名であり、他主要な業務は以下のとおりである。

○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・学務関連 学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学関関係・学科課程の編成 免許状・資格申請全般 等 ・教務関連 時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理 各種証明書作成と発行 等 ・実習関連 実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等
学生課	<ul style="list-style-type: none"> ・学生関係 生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き 証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調書の保管・管理 等 ・厚生関係 ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内 奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談 保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保 学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等 ・就職関係 求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調書等の発行 等
経理課	<ul style="list-style-type: none"> ・経理関係 納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等 ・管財関係 校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等
庶務課	<ul style="list-style-type: none"> ・庶務関係 郵便物の授受・来客・電話応対・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等 ・人事・労務関係 勤怠管理 等
入試広報課	<ul style="list-style-type: none"> ・広報関係 学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問、進学ガイダンス活動 資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等 ・入試関係 入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等

2 成果と課題（点検・評価）

本学の事務組織では、上記のような業務を事務長代理以下13名（内1名は図書館司書パートを含む）の職員によって担っている。平成19年度末退職者に対して補充が全て行われた訳ではないが、職員ひとりひとりが自分の担当する業務において責任を持ち業務を遂行した。また、文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」が2年目に入り平日の夕方から夜にかけて講義が開講されたことにより事務職員の負担が増えた。しかし、学生数の減少はあるものの事務職員の仕事量がそれに比例して減少するわけでもない。今後、さらに学生支援活動の多様化や学生募集活動の強化・推進などの業務が拡大傾向にある中、適切な人事配置と合理的な業務遂行が必要となってくる。

X I 財政

1 財政の状況

(1) 消費収支決算の状況

平成 20 年度の帰属収入は、3 億 3,052 万円であった。学生数が 100 名減少したことが大きく響き、前年度比 25.4%減となりました。

基本金組入額は、教員研究室のパーティション工事、LAN 構築工事など合わせて 580 万円を計上した。帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は、3 億 2,471 万円（前年度比 26.4%減）となっている。

一方消費支出は、2 億 9,918 万円（前年度比 13.2%減）となり、差引 2,553 万円の収入超過となった。

① 消費収入

(a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の減少により 1 億 1,167 万円の減収となっている。

(b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料であるが、39.8%減少した前年度に比べてさらに 10.5%減少している。

下の推移の通り、この 3 年間学生数は大きく減少しており、定員充足率が 50%台である現状を少しでも回復方向に軌道修正しなければ、イ. 学生生徒等納付金及びロ. 手数料の増加は見込めない。

○ 現員数の推移一覧

(単位:人)

期 日	現員数
平成 19 年 5 月 1 日現在	367
平成 20 年 5 月 1 日現在	267
平成 21 年 5 月 1 日現在	175

(c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものである。学生数の減少から 356 万円の減収となり、前年度比 12.1%減となっている。また、帰属収入に占める割合は 7.8%である。

(d) 資産運用収入

資産運用収入は、普通預金利息が主な内容である。したがって、実質的に資金の運用は図っていないのが現状である。昨年秋のサブプライムローンから発生した世界的な金融不安により、大きな被害を受けた大規模大学の運用損失を考えると、運用に手を出さないことの方が結果としては良かったと判断できる。

(e) 事業収入・雑収入

退職給与引当金戻入額の計上などにより、前年度に比べて 327 万円増加した。

○ 平成 20 年度資金収支計算書（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	279,666,000	279,728,300	△ 62,300
授業料収入	169,102,000	169,102,800	△ 800
入学金収入	27,640,000	27,640,000	0
実験実習料収入	16,004,000	16,064,000	△ 60,000
施設設備資金収入	61,480,000	61,480,000	0
図書費収入	4,912,000	4,911,500	500
保健衛生費収入	528,000	530,000	△ 2,000
手数料収入	3,153,000	3,279,500	△ 126,500
入学検定料収入	2,490,000	2,640,000	△ 150,000
試験料収入	213,000	187,500	25,500
証明手数料収入	450,000	452,000	△ 2,000
補助金収入	5,701,000	25,815,000	△ 20,114,000
国庫補助金収入	5,701,000	25,815,000	△ 20,114,000
資産運用収入	1,144,000	1,147,326	△ 3,326
受取利息・配当金収入	556,000	559,326	△ 3,326
施設設備利用料収入	588,000	588,000	0
事業収入	21,000	20,655	345
補助活動収入	21,000	20,655	345
雑収入	17,854,000	17,884,629	△ 30,629
過年度修正益	17,325,000	17,325,000	0
その他の雑収入	529,000	559,629	△ 30,629
前受金収入	61,284,000	62,769,000	△ 1,485,000
授業料前受金収入	25,795,000	26,666,000	△ 871,000
入学金前受金収入	23,400,000	23,700,000	△ 300,000
実験実習料前受金収入	1,925,000	1,975,000	△ 50,000

施設設備資金前受金収入	9,240,000	9,480,000	△ 240,000
図書費前受金収入	154,000	158,000	△ 4,000
保健衛生費前受金収入	770,000	790,000	△ 20,000
その他の収入	37,609,000	41,942,717	△ 4,333,717
前期末短期未収入金収入	352,000	351,621	379
預り金受入収入	25,374,000	25,246,505	127,495
仮払金回収収入	6,183,000	10,149,445	△ 3,966,445
仮受金受入収入	1,021,000	1,450,146	△ 429,146
代理会計預り金受入収入	4,679,000	4,745,000	△ 66,000
資金収入調整勘定	△ 72,373,000	△ 76,565,013	4,192,013
期末未収入金	0	△ 4,193,013	4,193,013
前期末前受金	△ 72,373,000	△ 72,372,000	△ 1,000
前年度繰越支払資金	572,890,154	572,890,154	
収入の部合計	906,949,154	928,912,268	△ 21,963,114

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	157,140,000	152,311,132	4,828,868
教員人件費支出	102,760,000	97,246,947	5,513,053
職員人件費支出	54,380,000	55,064,185	△ 684,185
教育研究経費支出	52,339,000	56,034,495	△ 3,695,495
消耗品費支出	5,600,000	6,075,646	△ 475,646
光熱水費支出	7,360,000	8,084,012	△ 724,012
旅費交通費支出	4,035,000	4,882,230	△ 847,230
渉外費支出	1,460,000	903,120	556,880
通信費支出	1,928,000	1,600,815	327,185
購読料支出	2,500,000	2,782,821	△ 282,821
印刷製本費支出	3,300,000	2,983,618	316,382
修繕費支出	1,855,000	3,559,274	△ 1,704,274
保険料支出	856,000	855,758	242
賃借料支出	761,000	694,724	66,276
公租公課支出	52,000	159,625	△ 107,625
負担金支出	1,285,000	1,265,196	19,804
支払手数料支出	17,950,000	18,496,298	△ 546,298
学校行事費支出	1,300,000	1,875,978	△ 575,978
厚生補導費支出	1,235,000	1,136,916	98,084

学生活動補助金支出	350,000	0	350,000
図書研究費支出	500,000	493,151	6,849
雑支出	12,000	185,313	△ 173,313
管理経費支出	54,407,000	57,811,652	△ 3,404,652
消耗品費支出	350,000	353,119	△ 3,119
光熱水費支出	971,000	166,945	804,055
旅費交通費支出	1,000,000	703,550	296,450
渉外費支出	22,000	10,668	11,332
通信費支出	355,000	274,447	80,553
印刷製本費支出	85,000	88,200	△ 3,200
修繕費支出	29,000	16,501	12,499
保険料支出	90,000	51,337	38,663
賃借料支出	127,000	82,502	44,498
公租公課支出	45,000	292,675	△ 247,675
負担金支出	602,000	592,791	9,209
支払手数料支出	14,360,000	18,834,663	△ 4,474,663
福利費支出	560,000	561,460	△ 1,460
広報費支出	18,200,000	16,660,914	1,539,086
学生活動補助金支出	5,000	0	5,000
私立大学等経常費補助金返還金	58,000	63,000	△ 5,000
過年度修正損	17,325,000	17,325,000	0
雑支出	223,000	1,733,880	△ 1,510,880
施設関係支出	6,616,000	7,434,002	△ 818,002
建物支出	6,616,000	7,434,002	△ 818,002
設備関係支出	799,000	996,964	△ 197,964
教育研究用機器備品支出	0	121,800	△ 121,800
図書支出	650,000	727,324	△ 77,324
車輛支出	149,000	147,840	1,160
その他の支出	45,342,000	48,249,869	△ 2,907,869
前期末未払金支払支出	4,414,000	4,413,313	687
預り金支払支出	25,374,000	24,946,072	427,928
前払金支払支出	517,000	566,089	△ 49,089
仮払金支払支出	9,037,000	10,303,817	△ 1,266,817
仮受金支払支出	1,021,000	1,450,146	△ 429,146
代理会計預り金支払支出	4,979,000	6,570,432	△ 1,591,432
資金支出調整勘定	△ 7,299,000	△ 11,971,272	4,672,272

期末未払金	△ 5,000,000	△ 9,673,028	4,673,028
前期末前払金	△ 2,299,000	△ 2,298,244	△ 756
次年度繰越支払資金	597,605,154	837,289,249	△ 239,684,095
支出の部合計	906,949,154	1,148,156,091	△ 241,206,937

② 消費支出

(a) 人件費

人件費は、教職員数が数名減少したことに伴って、前年度比 19.9%の減少となった。

また、帰属収入に占める割合は 46.8%となり、全国の私立短期大学平均値（※）に比べると本学の人件費比率は低い傾向にある。しかしながら、学生数の減少に歯止めがかからない現状を考慮すると今後人件費比率は上昇することが見込まれるため、学生数の確保が最大の課題となる。

※日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」（平成 20 年度版）参照

(b) 教育研究経費

教育研究経費は前年度比 7.7%減少し、帰属収入合計に占める割合は 25.3%で前年度比 4.8%の増加となった。教育研究活動の維持・発展のためには、消費支出を圧迫しない限りこの比率が高いことが望ましいとされている。

(c) 管理経費

管理経費は前年とほぼ変わらない 6,029 万円となった。帰属収入に占める割合は 18.2%で前年度比 4.5%の増加となった。学生に対する間接経費であることから低い方が良くとされていることから、無駄な経費の見直しを図っていく必要がある。

○ 平成 20 年度消費収支計算書（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：円）

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	279,666,000	279,728,300	△ 62,300
授業料	169,102,000	169,102,800	△ 800
入学金	27,640,000	27,640,000	0
実験実習料	16,004,000	16,064,000	△ 60,000
施設設備資金	61,480,000	61,480,000	0
図書費	4,912,000	4,911,500	500
保健衛生費	0	530,000	△ 530,000
補習授業料	528,000	0	528,000
手数料	3,153,000	3,279,500	△ 126,500
入学検定料	2,490,000	2,640,000	△ 150,000

試験料	213,000	187,500	25,500
証明手数料	450,000	452,000	△ 2,000
寄付金	0	130,200	△ 130,200
現物寄付金	0	130,200	△ 130,200
補助金	5,701,000	25,815,000	△ 20,114,000
国庫補助金	5,701,000	25,815,000	△ 20,114,000
資産運用収入	1,144,000	1,147,326	△ 3,326
受取利息・配当金	556,000	559,326	△ 3,326
施設設備利用料	588,000	588,000	0
事業収入	21,000	20,655	345
補助活動収入	21,000	20,655	345
雑収入	18,207,000	20,395,009	△ 2,188,009
退職給与引当金戻入額	353,000	2,510,380	△ 2,157,380
過年度修正益	17,325,000	17,325,000	0
その他の雑収入	529,000	559,629	△ 30,629
帰属収入合計	307,892,000	330,515,990	△ 22,623,990
基本金組入額合計	△ 6,763,000	△ 5,805,262	△ 957,738
消費収入の部合計	301,129,000	324,710,728	△ 23,581,728

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	157,140,000	154,878,092	2,261,908
教員人件費	102,760,000	97,246,947	5,513,053
職員人件費	54,380,000	55,064,185	△ 684,185
退職給与引当金繰入額	0	2,566,960	△ 2,566,960
教育研究経費	80,107,000	83,751,492	△ 3,644,492
消耗品費	5,600,000	6,075,646	△ 475,646
光熱水費	7,360,000	8,084,012	△ 724,012
旅費交通費	4,035,000	4,882,230	△ 847,230
渉外費	1,460,000	903,120	556,880
通信費	1,928,000	1,703,090	224,910
購読料	2,500,000	2,782,821	△ 282,821
印刷製本費	3,300,000	2,983,618	316,382
修繕費	1,855,000	3,559,274	△ 1,704,274
保険料	856,000	855,758	242
賃借料	761,000	694,724	66,276

公租公課	52,000	159,625	△ 107,625
負担金	1,285,000	1,265,196	19,804
支払手数料	17,950,000	18,636,298	△ 686,298
学校行事費	1,300,000	1,875,978	△ 575,978
厚生補導費	1,235,000	1,136,916	98,084
学生活動補助金	350,000	0	350,000
図書研究費	500,000	493,151	6,849
雑費	12,000	185,313	△ 173,313
減価償却費	27,768,000	27,474,722	293,278
管理経費	56,871,000	60,299,062	△ 3,428,062
消耗品費	350,000	353,119	△ 3,119
光熱水費	971,000	166,945	804,055
旅費交通費	1,000,000	703,550	296,450
渉外費	22,000	10,668	11,332
通信費	355,000	276,242	78,758
印刷製本費	85,000	88,200	△ 3,200
修繕費	29,000	16,501	12,499
保険料	90,000	51,337	38,663
賃借料	127,000	82,502	44,498
公租公課	45,000	292,675	△ 247,675
負担金	602,000	592,791	9,209
支払手数料	14,360,000	18,834,663	△ 4,474,663
福利費	560,000	561,460	△ 1,460
広報費	18,200,000	16,660,914	1,539,086
学生活動補助金	58,000	0	58,000
私立大学等経常費補助金返還金	5,000	63,000	△ 58,000
雑損	0	200	△ 200
過年度修正損	17,325,000	17,325,000	0
雑費	223,000	1,733,880	△ 1,510,880
減価償却費	2,464,000	2,485,415	△ 21,415
徴収不能額	0	256,500	△ 256,500
徴収不能額	0	256,500	△ 256,500
消費支出の部合計	294,118,000	299,185,146	△ 5,067,146
当年度消費収入超過額	7,011,000	25,525,582	
前年度繰越消費収入超過額	1,254,279,000	1,254,278,910	
基本金取崩額	7,612,000	0	7,612,000

翌年度繰越 消費 収入 超過額	1,268,902,000	1,279,804,492	
-----------------	---------------	---------------	--

(2) 貸借対照表の状況

平成20年度末の資産総額は、24億7,523万円で、うち固定資産が10億3,009万円、流動資産が8億4,252万円となっている。負債総額は2億163万円で、うち固定負債が1億2,471万円、流動負債が7,692万円となっている。また、基本金は前年度比580万円増の17億3,820万円となった。

○ 平成20年度貸借対照表（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	1,030,936,922	1,051,415,133	△ 20,478,211
有形固定資産	1,030,091,313	1,050,569,524	△ 20,478,211
土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	576,317,289	591,093,313	△ 14,776,024
構築物	2,222,948	2,927,447	△ 704,499
教育研究用機器備品	8,238,721	9,857,812	△ 1,619,091
その他の機器備品	3,607,403	4,168,181	△ 560,778
図書	15,463,877	18,114,746	△ 2,650,869
車輛	1,033,075	1,200,025	△ 166,950
その他の固定資産	845,609	845,609	0
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	203,680	203,680	0
流動資産	842,519,757	576,357,823	266,161,934
現金預金	837,289,249	572,890,154	264,399,095
未収入金	4,193,013	608,121	3,584,892
貯藏品	400,190	464,270	△ 64,080
仮払金	0	25,818	△ 25,818
前払金	637,305	2,369,460	△ 1,732,155
他部門勘定（資産）	601,777,908	601,777,908	0
他部門勘定（資産）	601,777,908	601,777,908	0
資 産 の 部 合 計	2,475,234,587	2,229,550,864	245,683,723

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	124,717,319	124,660,739	56,580
退職給与引当金	124,717,319	124,660,739	56,580
流動負債	76,919,448	82,787,732	△ 5,868,284
未払金	9,673,028	4,413,313	5,259,715
前受金	62,769,000	72,372,000	△ 9,603,000
預り金	1,323,751	1,023,318	300,433
代理会計預り金	3,153,669	4,979,101	△ 1,825,432
負 債 の 部 合 計	201,636,767	207,448,471	△ 5,811,704

基 本 金 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,698,201,134	1,692,395,872	5,805,262
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	1,738,201,134	1,732,395,872	5,805,262

(3) 財務比率

ここには本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

○ 財務比率（平成16年度～平成20年度）

財 務 比 率		平 成 16 年度	平 成 17 年度	平 成 18 年度	平 成 19 年度	平 成 20 年度
貸 借 対 照 表	固 定 比 率	43.3%	41.3%	37.1%	54.2%	34.2%
	固 定 長 期 適 合 率	41.3%	39.6%	35.5%	50.9%	32.8%
	流 動 比 率	554.4%	583.0%	867.4%	696.2%	1095.3%
消 費 収 支 計 算 書	人 件 費 比 率	68.3%	58.2%	70.7%	43.6%	46.8%
	消 費 支 出 比 率	97.9%	85.6%	119.2%	77.8%	90.5%
	消 費 収 支 比 率	98.1%	85.6%	119.2%	78.1%	92.1%

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金(純資産)で賄われているかをみる指標で、本学では平成16年度から平成20年度にかけての5年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金

によることなく自己資金で賄われていて健全であるといえる。

② 固定長期適合率<固定資産／(自己資金+固定負債)×100>

固定長期適合率の5年間の推移をみると100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であるといえる。

③ 流動比率(流動資産／流動負債×100)

流動比率は1年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標であるが、本学は平成16年度から平成20年度にかけて優良で信用度が高いとされる流動比率200%以上を維持しており、また、流動負債の中には弁済の対照となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約80%含まれていることから問題はないといえる。

④ 人件費比率(人件費／帰属収入×100)

人件費問題は、学校財務の中で最高位を占めている。他の消費支出科目をまとめても、その金額は人件費には及ばない。しかも、消費支出の膨張の原因になっており、学校法人のグレードが上がるにつれ、人件費比率は下がり、他の項目が増える傾向になっている。私学事業団の実数分析では、短大法人が平成13年度～平成17年度にかけて58.0%～63.0%に範囲にある。本学では、平成20年度の人件費比率は46.8%となっていることから、私学事業団の実数値と比較しても良い数値と判断できる。

⑤ 消費支出比率(消費支出／帰属収入)

消費支出比率は、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると過去の蓄積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになる。このことから100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

⑥ 消費収支比率(消費支出／消費収入)

消費支出比率も、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると支出超過の状態になる。

(4) 成果と課題

改組転換により、平成 15 年度以降着実に増加した学生数も昨年減少に転じ、平成 20 年度は前年比 72.8%、100 名とさらに大きく減少した。消費収支差額はかろうじて収入超過を維持したものの、平成 21 年度の入学者数を考慮すると支出超過は避けられない状況となっている。

この 2 年間財政的に悪化していることは事実であり、従って「成果」と言えるものは無いに等しい。原因は平成 18 年度末から続く「風評被害」の一言に尽きる。

この現状を打開する「課題」は、学生生徒等納付金収入の増加、すなわち定員確保のために全力を尽くすことが第一である。本学の収支構造を分析した場合、消費収支が均衡するラインは平成 20 年度の支出を前提とした場合、定員充足率 80%である。

従って何としてでもこの 80%を死守し、1 人でも多く定員確保するべく教職員一丸となって知恵を出し合うことが必要である。

学園全体の財政的要求から、本学における学科増設等による財政改善方策は現実的には困難な状況にある。ここ数年の全国の短期大学の定員割れの比率が上昇する一方の状況の中で学生生徒数を増やすことは容易ではない。就職実績等本学の「強み」を確実にアピールし、「弱み」である設備施設の更新をできる範囲で行い、進学担当者及び志願者に、魅力ある学校として選択して頂く努力をしていかなければならない。

また、私立大学等経常費補助金だけでなく、3 年後に創立 30 周年を迎えるにあたり、卒業生からの寄付などの外部資金の獲得なども検討していく必要があるだろう。

平成 22 年度の入学者が今年度と変わらない場合、学校としての存続を真剣に議論しなければいけないことになる。来年度は、まさに正念場の年である。

X II 同窓会（秋桜会）

1 活動状況

（1） 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員とし、会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会 長	小林ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	飯塚 紀子（6回生・児童教育学科）・池田 聡子（6回生・児童教育学科）
会 計	金谷 佳代（13回生・英語学科）
書 記	矢島 愛子（7回生・幼児教育学科第二部）
会計監査	佐藤 節子（2回生・児童教育学科）
幹 事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	井筒紫乃（※学生部長が担当）

（2） 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年3回の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

○ 同窓会の活動状況（平成20年度）

日 程	内 容
平成20年5月18日 第1回役員会	・会報の作成について・終身会費徴収状況について・新役員について
9月21日 第2回役員会	・総会について・総会案内状の発送について
11月23日 総会	・開式の辞・会長あいさつ・定数確認 ・議案審議（平成19年度会務報告・決算報告・監査報告・平成19年度会務計画・予算案） ・新役員あいさつ・閉式の辞
平成21年2月15日 第3回役員会	・各係の内容説明・新役員の係の決め・秋桜会発足25周年記念パーティー開催について

2 成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも、会長をはじめとした役員を中心として行われている。卒業生のために設立された同窓会ではあるが、そのあり方が卒業生自身にも十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は、同窓会長が入学式や卒業式に列席し、祝辞を述べるなど同窓会の存在をアピールしている。

今年の卒業生が25回目となり、秋桜会発足から四半世紀がたちひとつの節目の年でもあるために、次年度は1回生～25回生が一堂に会する記念パーティーを開催するのはどうか、との話し合いがもたれた。このような催し物が開催できれば、秋桜会の発展や卒業生同士の横のつながりや、また、そこからの地域との関わりへと、本学が活用されることも考えられるであろう。

執筆者一覧 (50 音順)

専任教員

藤田 利久 ・ 青木 万里 ・ 安部 孝 ・ 安部 大輔 ・ 井筒 紫乃
入江 良英 ・ 牛込 彰彦 ・ 浦 由希子 ・ 小澤 和恵 ・ 木許 隆
草信 和世 ・ 斐 珉卿

事務職員

濱野 哲也 ・ 秋山 知世 ・ 奥貫慶一郎 ・ 佐藤 猛 ・ 相馬 萌
田中 淳一 ・ 中村 周 ・ 永田 朗子 ・ 新島 由子 ・ 橋本早也佳
原田 智鶴

学園事務局

池田 博文 ・ 吉田 忠幸